

---

# 第二次長野市やまざと振興計画

---

～中山間地域の振興に向けて～

(平成 29 年度～平成 33 年度)



平成 29 年 4 月

長 野 市

## 目次

---

### I 計画の策定に当たって

1	計画策定の経緯と趣旨	1
2	計画の位置づけ	1
3	計画の期間	2
4	計画の対象地域	2
5	中山間地域の役割	4
6	中山間地域の課題	4

### II 計画の概要

1	基本目標	6
2	基本方針	6
3	大施策の内容	6
4	計画の推進体制	7
5	施策の展開《施策の体系図》	8

### III 主要施策の展開

大施策1	地域資源を活用した産業の振興	
	現状と課題	9
	施策の取組、施策及び主要事業	9
大施策2	持続可能なコミュニティづくり	
	現状と課題	13
	施策の取組、施策及び主要事業	13
大施策3	地域の魅力発信と交流	
	現状と課題	15
	施策の取組、施策及び主要事業	15
大施策4	暮らし続けられる生活環境の維持	
	現状と課題	18
	施策の取組、施策及び主要事業	18

### IV 中山間地域の状況

1	数字で見る地域の現状と課題（統計データ）	23
2	地区ごとの将来像と現況及び課題	32

### 参考資料

#### 中山間地域住民アンケート

---

表紙写真：大岡地区の中牧池田集落と北アルプス

# I 計画の策定に当たって

## 1 計画策定の経緯と趣旨

長野市域の面積の4分の3を占め、過疎化、高齢化が急速に進む中山間地域の課題については、全庁を挙げて総合的な取組を進める必要があることから、平成22年度に「長野市やまざと振興計画」を策定しました。その後、中山間地域の活性化を重要施策に位置付けて、部局横断的にハード事業・ソフト事業の両面からの諸施策を展開してきました。

中でも、「やまざと支援交付金」や「地域おこし協力隊」、「やまざとビジネス支援補助金」の導入、加えて、中山間地域と都市部との相互理解を深める「地域間交流事業」など、中山間地域の振興施策を積極的に実施し、一定の成果を上げてきました。

しかしながら、全国的に人口減少傾向や、少子・高齢化が進み、若者を中心として都市部への人口流出に歯止めがかからない状況は、中山間地域で特に顕著であり、また、地域の様々な課題は、複数の要因が複雑に絡み合うことによって生じているため、一朝一夕に課題が解決できるものではなく、根本的な解決には至っていません。

本計画は平成22年の策定以降に取り組んできた成果や実績を踏まえ、さらに、人口減少克服や地方創生に向けた取組等、国や県の新たな動きも視野に入れ、長野市第五次総合計画前期基本計画に沿って、これまでの計画を改定します。

本計画により、中山間地域が抱える課題を明らかにし、施策・事業を整理・体系化することで、今後5年間の本市の中山間地域政策を総合的・計画的に展開することを目的とするものです。

## 2 計画の位置づけ

本計画は、第五次長野市総合計画前期基本計画を上位計画とし、みんなで取り組む中山間地域の振興の指針となるよう、基本方針・大施策・施策の体系別にその取り組む事業を記載したものです。

また、関係課の分野別個別計画等との整合を図りながら策定したものです。

### 3 計画の期間

本計画の期間は、平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 年間とします。

### 4 計画の対象地域

#### 計画の対象地域

本計画による長野市の中山間地域は、市の中心部から遠距離に位置し、市街地に比較して地形や生活条件に隔たりがある地域で、急激な人口減少と少子・高齢化も著しい次の 13 地域とします。

#### 【第二次長野市やまざと振興計画の対象地域】

浅川、小田切、芋井、篠ノ井(信里)、松代(豊栄・西条)、若穂(保科)、七二会、信更、戸隠、鬼無里、大岡、信州新町及び中条地区

※ 対象地域の規定根拠の経緯は、平成 25 年改訂版の長野市やまざと振興計画を参照ください。

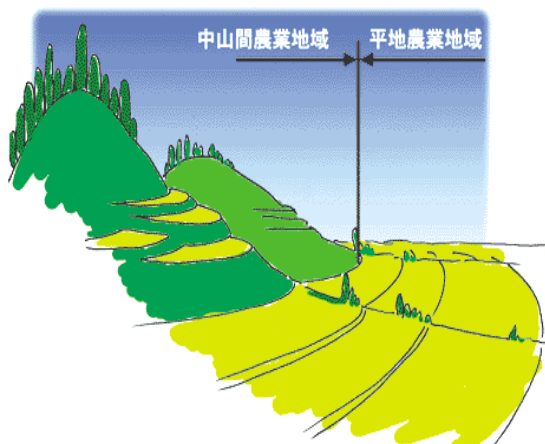
### ◆ 中山間地域とは

中山間地域とは、「平地の外縁部から山間地までのまとまった平坦な耕地の少ない地域」をいいます。(出典：農林水産省 HP より)

一般的に、地形は、平野から山に向かって、平地→中間地→山間地と変化していきます。この中間地と山間地を合わせて中山間地域と呼んでいます。

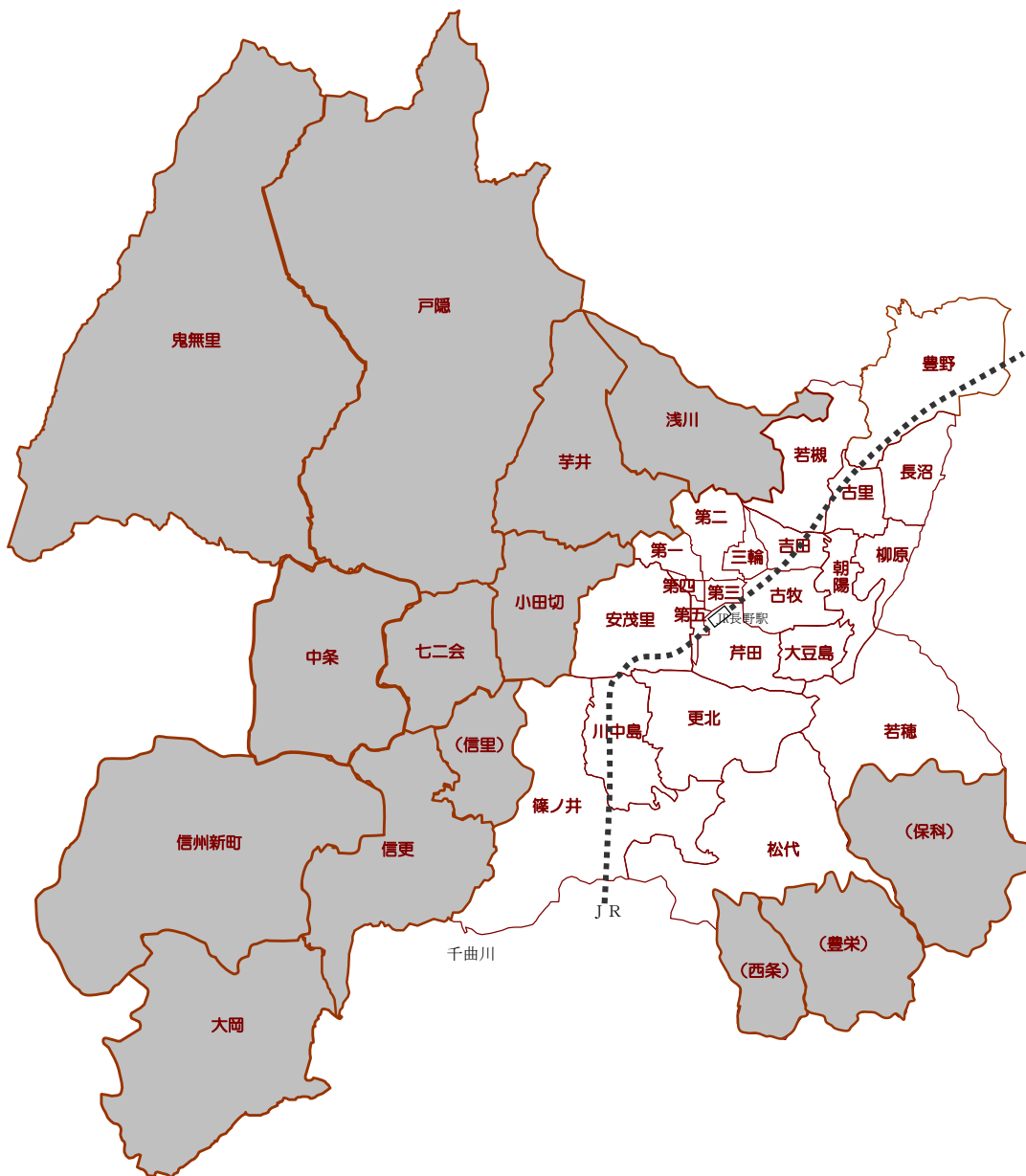
中山間地域では、かつては主に農林業を中心とした第一次産業が生活基盤であり、生産活動と生活が一体となって集落などの地域共同体を形成して、極めて狭い範囲で日常生活が営まれてきました。

ところが、戦後の高度経済成長後の労働形態が農林業を中心とした第一次産業から第二次産業や第三次産業へ移行するとともに、モータリゼーションの進展に伴うマイカーの普及により、中山間地域から都市部へ人口流出が進行しました。



# I 計画の策定に当たって

## 本計画の対象とする中山間地域（13地区）



### 5 中山間地域の役割

本市の中山間地域は、広大な森林と豊かな自然環境を有しており、市域面積の74.3%を占め、人口の8.8%が居住する地域です。（H29.1.1現在）

中山間地域は、森林や農地による土砂流出の防止、水源のかん養、環境の保全等の多面的な機能を有しており、都市部の住民の生活を守るとともに、恵まれた自然が形成する良好な景観の提供や農林畜産物の供給に寄与するなど、重要な役割を果たしています。これら多面的機能の源である森林や農地を守ってきた人々が居住する集落は、都市部では得がたい潤いに満ちた生活空間や、自然との共生を通じて育まれてきた固有の文化や古い歴史や伝統を持つ、本市のかけがえのない財産です。

### 6 中山間地域の課題

中山間地域では、地域の振興を妨げる複数の要因が複雑に絡み合って、負の連鎖を生み出しています。ここでは主な要因を挙げ、課題を共有します。

#### ■ 不利な地形条件

本市の中山間地域の多くは、森林等に囲まれた傾斜地で、山間部の谷あい集落や耕作地が点在しています。また、市の中心部から遠距離に位置し、不整形で分散した農地で耕作するなど、平坦部と比べ地形や生活条件に隔たりがあります。

#### ■ 急速な過疎化と少子・高齢化

進学や就労、婚姻を機に若年層を中心に都市部への人口流出が続いています。

過疎化や少子・高齢化は平坦部に先行する形で急速に進み、その勢いに歯止めがかからない状況にあることから、地域継承者の確保が懸念されています。

#### ■ 雇用の場や収入の確保

中山間地域の基幹産業である農林業は、米価や木材価格の長期的な低迷等により、十分な収入が得られない状況です。また、地形的に作業効率も不利な上、耕作放棄地及び荒廃した森林の増加に伴う野生鳥獣による被害の急激な増加により、耕作意欲の低下を招き、販売農家数の減少が続いています。

また、第二次・第三次産業も小規模で、就業機会が十分でない状況です。

## I 計画の策定に当たって

---

### ■ コミュニティ存続の危機

人口減少や少子・高齢化に伴う地域の担い手不足により、地域活力や地域社会の諸機能の低下が顕在化しています。特に地域の中心から外れた集落では、数世帯で一集落を形成する小規模集落も少なくなく、集落コミュニティの存続自体が危ぶまれる状況が年々深刻さを増しつつあります。



中条地区



信州新町地区

## Ⅱ 計画の概要

### 1 基本目標

各地域の住民自治協議会を中心に検討いただいた「地域が思い描く地域の将来像や方向性」を総体的に勘案し、次のとおり基本目標を定めます。

「やまざと」のもつ魅力や資源をいかし、  
未来につなぐ、いきいきと元気な地域づくり

### 2 基本方針

平成 28 年 2 月に策定した長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標や第五次長野市総合計画前期基本計画で掲げた 3 つの計画推進重点テーマを視点として、第二次長野市やまざと振興計画の基本方針を次のとおり定めます。

- ① 特色ある中山間地域づくり (魅力ある地域づくり)
- ② 都市地域との交流の促進 (にぎわいあるまちづくり)
- ③ 移住・定住の促進 (活力あるまちづくり)

基本目標・方針の下に、4 つの大施策を柱に 14 の施策をまとめました。

これら施策の実施により、基本目標の実現を目指して、市民、住民自治協議会、各種団体、企業、行政がそれぞれの役割を果たして、中山間地域の振興に取り組みます。

### 3 大施策の内容

#### 大施策 1 地域資源を活用した産業の振興 ～雇用の場や収入の確保～

中山間地域を活性化するには、農林業の産物や、商品、サービスなどの地域資源の強みを活かし、産業の高付加価値化を図っていくことが必要です。

また、中山間地域における雇用を確保するため、作業の省力化や付加価値の高い農産物の導入、地域の特質を活かしたビジネスの展開、既存事業の再構築などを支援します。



## Ⅱ 計画の概要

### 大施策 2 持続可能なコミュニティづくり ～地域力の維持と活性化～

持続可能なコミュニティづくりのために、現在の集落機能を低下させない、あるいは補完するために、住民主体による意欲的な取組を支援するとともに、個性豊かな地域づくりや、地域運営の核となる人材の育成を支援します。

### 大施策 3 地域の魅力発信と交流 ～地域のにぎわい再生～

中山間地域が有する独自の自然環境や伝統文化などの特色や、魅力ある観光資源を十分に活用し、都市部の個人・団体・事業所などとの交流の促進を図ります。  
様々な情報メディアでの発信に努め、交流の促進による地域のにぎわい、活性化が図られる施策を推進し、移住・定住につなげます。

### 大施策 4 暮らし続けられる生活環境の維持 ～安全安心な暮らしの確保～

中山間地域の住民が日々安心して生活を送れるよう、道路の整備や防災対策、交通手段の確保など、地域住民の理解と協力を得ながら、生活基盤の維持・整備を推進します。

高齢者や子育て世代が地域で安心して暮らせるよう、医療体制や保健福祉サービスの確保と、子育て・教育環境の維持が図られる施策を推進します。

## 4 計画の推進体制

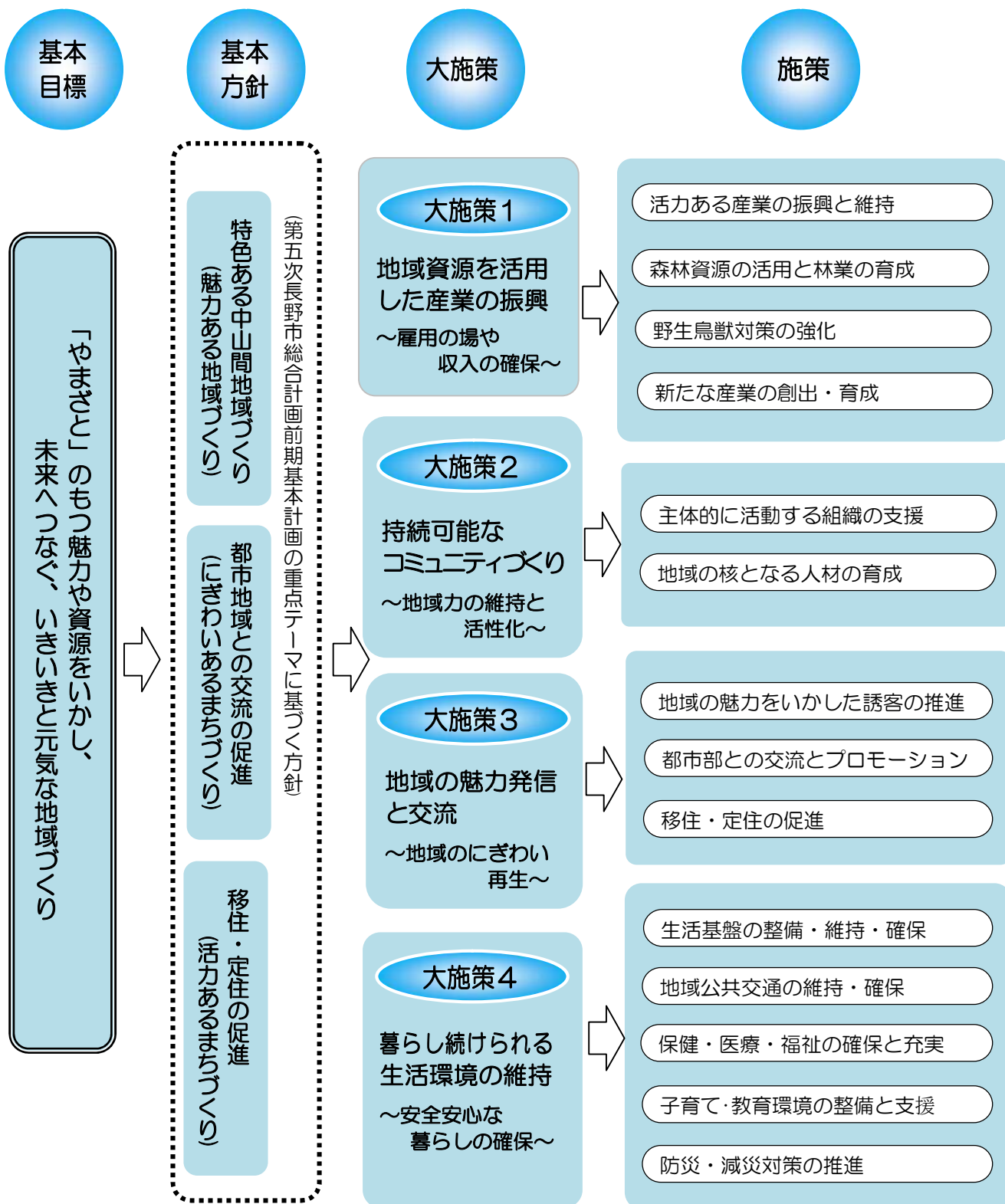
中山間地域が抱える諸課題は、様々な要素が複雑に絡み合っていることから、全庁を挙げて、関係部局が分野横断的に連携・調整を図っていく必要があります。

また、第二次長野市やまざと振興計画は、第五次長野市総合計画の中から、中山間地域特有の課題の解決や活性化につなげていくものを取り上げ、整理・体系化しています。

なお、本振興計画の進捗管理は、総合計画推進本部の推進体制と整合を図り、調整・推進していきます。

中山間地域は、地域ごとに様々な実情や課題を抱えています。  
計画の推進に当たっては、それぞれの地域が主体性を発揮することで成果を上げられると考えられるため、個々の取組に対して必要な協力や支援を行っていきます。

5 施策の展開 《施策の体系図》



## Ⅲ 主要施策の展開

### 1 地域資源を活用した産業の振興

～ 雇用の場や収入の確保～

#### 現状と課題

人口減少の進行に歯止めをかけるためには、中山間地域で暮らしていくことができる収入の確保が、極めて重要なことです。

中山間地域の基盤産業である農林業については、地形的条件が不利であるほか、主要農作物や木材価格の長期的な低迷等、若年層の都市部への流出等もあって、農林業の担い手不足や農林業従事者の高齢化が進行しています。

また、野生鳥獣による農作物被害は年々深刻化し、従事者の耕作意欲の低下や耕作放棄地の増加を招くなど、農業を取り巻く情勢はより一層厳しさを増しています。

地域で農業生産を続けるには、都市部で積極的に消費してもらうとともに、加工品の開発なども必要となっています。

林業においては、安価な外国産木材の影響や木材に替わる建築資材の台頭により国産材の需要は低迷し続けています。また、間伐や枝払い等が十分に行われなかったことによる森林整備の遅れが目立ち、防災面からも災害の誘発が懸念されます。

なお、一部地域では、住民団体による間伐材の薪等への活用などの取組が行われています。

また、中山間地域の資源を活かした新たなビジネスも生まれていますが、新たな雇用にはつながりにくい状況となっています。

#### 施策と取組

##### (1) 活力ある産業の振興と維持 【商工労働課、農業政策課、農業土木課】

- ◇ 関係団体との連携により、農産物の加工・販売や特産品の開発などを積極的に支援し、地域の特性を活かした産業の育成を図ります。
- ◇ ワイン用ぶどうの産地形成など、中山間地域に適した作物や省力化で、収益性の高い作物の導入を促進することで、中山間地域における農業振興を図ります。
- ◇ 中山間地域で生産された新鮮な農産物が市内で消費されるよう、市民や事業者との協働により「地産地消」の取組を積極的に推進します。

### Ⅲ 主要施策の展開 1 地域資源を活用した産業の振興

---

- ◇ 多様で新たな担い手を育成するため、青年の新規就農者や定年帰農者、「半農半X」就農者に対して、農業技術の習得支援などを実施します。
- ◇ 農地の有効活用を図るため、ほ場や農道などの生産基盤を整備し、生産性の向上と省力化を図るとともに、農道、水路をはじめとする農業用施設の適正な維持管理に努めます。また、中山間地域の耕作放棄地の発生防止と多面的な機能の保持に努めます。
- ◇ これまで慣れ親しんできた地元の商店街の環境整備と商工団体が実施する活性化の取組を支援します。

#### (2) 森林資源の活用と林業の育成 【森林整備課】

- ◇ 販路拡大のため木材の有効活用方法の検討及び伐採後の森林整備に対する支援を図ります。
- ◇ 森林が持つ公益的機能を維持・増進するため、間伐を中心とした森林整備を促進し、良質な森林資源の形成を図ります。
- ◇ 森林体験や森づくり講座などの開催を通して、森林が果たす役割や重要性に対する市民の意識を高めるとともに、森林・林業を身近に感じることができる環境づくりを推進します。
- ◇ 林業の生産性向上を図るため、林内道路網を整備するとともに、公共施設への木材利用など地域材の利活用と林業の活性化を図ります。

#### (3) 野生鳥獣対策の強化 【いのしか対策課】

- ◇ イノシシ、ニホンジカ、サル、クマ、カラスなど、野生鳥獣による農作物の被害防止に向けた対策を推進します。また、地域の有害鳥獣対策協議会等と連携した地域ぐるみの取組を促進し、被害の防止を図ります。
- ◇ 個体数調整や駆除のために捕獲したイノシシ、ニホンジカを地域資源としてジビエ肉などに有効活用します。

#### (4) 新たな産業の創出・育成 【地域活動支援課、環境政策課、商工労働課、農業政策課、森林整備課】

- ◇ 商工業などと連携し、企業的発想に基づく農業を研究します。また、観光事業との連携により、観光農園や農業体験ツアーなどの特色を活かした新たなビジネスの創出を研究するとともに支援します。  
また、中山間地域の雇用を確保するため、省力化や付加価値の高い農作物の導入、地域の特色を活かしたビジネスの展開、既存事業の再構築などを支援します。
- ◇ 中山間地域の特産品などをブランド化し、地域の活性化につなげる「ながのいのち」

### Ⅲ 主要施策の展開 1 地域資源を活用した産業の振興

ブランドの推進商品開発や農業法人化運営事業を行う農業公社を支援し、効率的な農業支援体制の推進を図ります。

- ◇ 木材の利用拡大と地域材の有効活用のため、間伐材や製材端材などの未利用木材を木質バイオマス燃料として利用するなど、新たな需要の拡大を推進します。
- ◇ 省力栽培が可能で、栄養価の高いスーパーフードとして注目されるほか、茎葉も余すことなく利用できる穀物「ソルガム」の栽培や利活用推進による地域振興を図ります。
- ◇ 事務所の開設や出店に対する支援により、起業・創業しやすい環境整備を推進します。

#### ■ 施策及び主要事業

大施策	施策	主要事業
1 地域資源を活用した産業の振興	(1) 活力ある産業の振興と維持  (商工労働課、農業政策課、農業土木課)	中山間地域等直接支払事業 中山間地域農業活性化事業 山村畑作地域活性化事業 新規就農者支援事業 農業研修センター管理運営事業 エゴマ栽培の普及促進事業 荒廃農地等利活用促進交付金 ワイン用ぶどう産地形成事業 めん羊振興事業 戸隠牧草地改良事業 農業機械化補助金事業 多面的機能支払交付金事業 農地流動化助成金交付事業 地域奨励作物支援事業 地産地消推進事業 農業公社事業 農道整備事業 農道維持管理事業 商工団体育成補助金 商店街環境整備事業補助金 商店街イベント事業補助金 商店街活性化事業補助金
	(2) 森林資源の活用と林業の育成  (森林整備課)	林道・林業専用道整備事業 森林整備・木材活用事業 林業振興補助事業 市営林保育事業 広葉樹林造成モデル事業

### Ⅲ 主要施策の展開 1 地域資源を活用した産業の振興

1 地域資源を活用した産業の振興	(3) 野生鳥獣対策の強化  (いのしか対策課)	野生鳥獣被害防除対策事業 緩衝帯整備事業 シビエ振興事業
	(4) 新たな産業の創出・育成  (地域活動支援課、環境政策課、 商工労働課、農業政策課)	地域木質バイオマス利用推進事業 バイオマス利活用事業 鬼無里の湯木質バイオマスボイラー整備事業 農業公社事業(再掲) やまざとビジネス支援補助金事業 奥裾花自然園再生可能エネルギー活用事業 耕作放棄地等の資源作物(ソルガム)活用 調査事業(温暖化防止企画・調査) オフィス家賃等助成事業 事業用地取得事業

#### ■ 目指すべき指標等

【アンケート指標：中山間地域の市民が思う割合】	現状値 (H28)	目標 (H33)
森林が整備されている地域である	32.3%	➡

【指標項目】	現状値 (H28)	目標 (H33)
木材生産量 (国・県への木材生産補助申請実績)	8,168 m <sup>3</sup>	17,500 m <sup>3</sup>
木質バイオマス燃料需要量 (灯油換算)	180,120ℓ	330,000ℓ

#### ■ アンケート指標について

現状値：第五次長野市総合計画策定のための市民アンケートの有効回答のうち、「そう思う」「ややそう思う」と答えた中山間地域の市民の割合を表示しました。アンケートは毎年実施します。

目標値：目標は、5ポイント以上の上昇を目標とする場合には ➡ と、現状維持を目標とする場合には ➡ と記載しています。



## 2 持続可能なコミュニティづくり

～ 地域力の維持と活性化 ～

### 現状と課題

中山間地域の住民の多くが、これからも住み慣れた地域で暮らしていくことを望んでいます。

本市では、住民の主体的かつ意欲的な取組について行政が積極的に支援し、地区の課題を迅速かつ効果的に解決していくシステムである都市内分権を推進する中、住民自治協議会や支所が協働し、地区ごとの特色あるまちづくりを進めてきました。しかし、地域の課題は、複数の要因が複雑に絡んでいることから、根本的な解決には至っていない状況にあります。

これまで住民の相互扶助や強い絆により集落が維持されてきましたが、急激な人口減少や少子・高齢化は、地域の担い手不足や集落のコミュニティ機能の著しい低下を招き、一部地域では自力で集落機能を維持することが厳しい状況にあります。

今後、地域の存続と活性化のため、地域の課題は自分たちの手で解決していくことを基本とし、地域おこし協力隊など新たな担い手の導入を図るとともに、地域への愛着と誇りを醸成する中で、地域運営の核となる人材を育成していく必要があります。

### 施策の取組

#### (1) 主体的に活動する組織の支援 【地域活動支援課】

- ◇ 「自分たちの地域は自分たちでつくる」という理念の下、自立して主体的に取り組む活動や特色ある地域活動を支援し、地域に愛着と誇りをもちながら、いきいきと元気に暮らしていける地域づくりを目指します。
- ◇ 中山間地域の互助機能の維持や地域課題を解決するために、住民自治協議会をはじめとする地域組織が中心となっていく事業への支援や、地域おこし協力隊の配置など、地域の実情に応じた施策を進めます。

#### (2) 地域の核となる人材の育成 【地域活動支援課、家庭・地域学びの課】

- ◇ 地域課題や資源を掘り起こし、その解決や活用に向けた意見集約や調整を行う、核となる人材が求められています。そのため、地域住民が自主的に仲間と学べる環境づくりや地域を支える人材の育成と確保を支援します。




### Ⅲ 主要施策の展開 2 持続可能なコミュニティづくり

#### ■ 施策及び主要事業



大施策	施策	主要事業
2 持続可能なコミュニティづくり	(1) 主体的に活動する組織の支援  (地域活動支援課)	地域いきいき運営交付金事業 地域やる気支援補助金事業 まちづくり活動支援補助事業 コミュニティ助成事業 支所発地域力向上支援金事業 地域おこし協力隊事業 やまざと支援交付金事業 地域きらめき隊活動費 一支所一モデル事業
	(2) 地域の核となる人材の育成 (地域活動支援課、家庭・地域学びの課)	地域おこし協力隊事業(再掲) 地域きらめき隊活動費(再掲) 公民館管理運営事業

#### ■ 目指すべき指標等

【アンケート指標：中山間地域の市民が思う割合】	現状値 (H28)	目標 (H33)
住民自治協議会、区、自治会などの活動やまちづくりに関わるボランティア活動に参加している	28.0%	

#### ■ アンケート指標について

現状値：第五次長野市総合計画策定のための市民アンケートの有効回答のうち、「そう思う」「ややそう思う」と答えた中山間地域の市民の割合を表示しました。アンケートは毎年実施します。

目標値：目標は、5ポイント以上の上昇を目標とする場合には  と、現状維持を目標とする場合には  と記載しています。





### 3 地域の魅力発信と交流

～ 地域のにぎわい再生 ～

#### 現状と課題

自然との触れ合いは、人間が本来持ち合わせている五感（味覚・臭覚・聴覚・視覚・触覚）を高めるとともに、心身ともにリフレッシュする効果があると言われています。

中山間地域には、豊かな自然・生態系などの美しい日本の原風景が残されており、郷土食や伝統文化など、ふるさとの持つやすらぎや癒しに触れることができる場所となっています。

また、都市と農村の交流は、住民の新たな発想を促し、地域に希望を生み出すなど、地域住民の活力を向上させます。

現在、首都圏を始めとした都市住民の一部は、自然豊かな地方への興味や関心を持ち、移住も見据えています。この機を捉えて、何度でも訪れたいくなり、誰もが住みたくなる都市「長野」を目指す取組が必要とされています。

中山間地域ならではの地域資源を効果的に活用し、住民主体による交流事業や移住希望者の受入体制の整備、積極的な情報発信が必要となっています。

#### 施策と取組

##### (1) 地域の魅力をいかした誘客の推進 【観光振興課】

- ◇ 観光客等が自然との触れ合いを満喫できるよう、様々な関係者と意識を共有し、中山間地域の歴史・文化や自然などの地域資源を活用した地域ブランドの創造と確立を推進します。
- ◇ 地域の様々な独自資源を観光に結びつけることで、新たな価値を創造し、じっくりと地域の魅力を味わう滞在型・体験型メニューの開発を進めます。
- ◇ 観光客が楽しむためのコンテンツの開発には、地元を熟知した地域住民の創意工夫が必要なことから、地域主体の取組を支援します。

##### (2) 都市部との交流とプロモーション

【企画課、人口増推進課、地域活動支援課、農業政策課、学校教育課】

- ◇ 農山村の自然や環境を活用した農業体験及び民泊を伴う修学旅行の受入れなど、地域住民が主体となり取り組む都市・農村交流を推進し、交流人口の増加につなげます。
- ◇ 市内の中山間地域住民と中山間地域以外の住民との交流により、多くの市民が中山間地域の状況や風土、地域特性などの相互理解を深めるとともに、中山間地域の活性化を図ります。

### Ⅲ 主要施策の展開 3 地域の魅力発信と交流

- ◇ 情報発信ツールを活用したシティプロモーションの展開により、都市住民が訪れたいくなるような地域特性に溢れた魅力ある情報を発信します。
- ◇ 市民農園や滞在型市民農園(クラインガルテン)の情報を発信し、都市住民との交流を促進します。

#### (3) 移住・定住の促進

【人口増推進課、地域活動支援課、農業政策課、住宅課】

- ◇ 中山間地域への新たな視点や発想を取り入れて、地域活性化や集落等の維持を図るため、都市部の住民を中心に外部からの人材誘致を積極的に促進します。
- ◇ 移住・定住希望者向けの専用サイトを運用し、中山間地域のライフスタイルや魅力を発信するとともに、田舎暮らしを志向する都市住民の移住・定住の受皿として、移住希望者の視点に立った「長野」ならではの受入体制や支援制度を整備します。
- ◇ 移住希望者の住宅需要に対応するため、利活用が可能な空き家の情報や改修支援制度、公的賃貸住宅や菜園付き長期滞在施設等の住宅するなど、住まいに関する支援・情報提供の充実を図ります。
- ◇ 地域おこし協力隊や移住者の起業を支援することで、中山間地域への定住を図ります。


#### ■ 施策及び主要事業

大施策	施策	主要事業
3 地域の魅力発信と交流	(1) 地域の魅力をいかした誘客の推進  (観光振興課、文化財課)	観光イベント補助事業 戸隠観光施設整備 飯綱高原スキー場運営事業 鬼無里大岡観光施設運営事業 戸隠観光施設運営事業 観光コンベンション事業助成金 戸隠地区山岳遭難防止対策 環境保全活動負担金 トレッキングコース整備運営 飯綱高原施設管理運営 飯綱高原屋外施設改修事業 戸隠観光施設管理運営 森林学習館等施設管理運営 大岡交流施設管理運営 アルプス展望公園管理運営 大岡アルプス展望ふれあいセンター管理運営 戸隠交流集会施設管理運営 信州新町萩野施設管理運営 信州犀川交流センター管理運営

### Ⅲ 主要施策の展開 3 地域の魅力発信と交流



3 地域の魅力 発信と交流		信州新町青少年旅行村管理運営 信州新町不動温泉管理運営 中条やきもち家管理運営 保科温泉管理運営 重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業
	(2) 都市部との交流とプロ モーション (企画課、人口増推進課、 地域活動支援課、農業政策 課、学校教育課)	ながのシティプロモーション 都市農村交流推進事業 市民菜園管理運営 山村留学事業 地域間交流事業補助金
	(3) 移住・定住の促進  (人口増推進課、地域活動支 援課、農業政策課、住宅課)	移住・定住促進 ちょっとお試し短期移住体験 長野市空き家改修等補助金 移住促進支援金事業 連携中枢都市圏移住促進事業 Uターン促進多世代住宅建設補助金 地域おこし協力隊 菜園付き長期滞在施設管理運営 定住促進住宅入居事業 特定公共賃貸住宅入居事業

#### ■ 目指すべき指標等

【アンケート指標：中山間地域の市民が思う割合】	現状値 (H28)	目標 (H33)
知人や友人などに地域の魅力を伝えている	44.0%	

#### ■ アンケート指標について

現状値：第五次長野市総合計画策定のための市民アンケートの有効回答のうち、「そう思う」「ややそう思う」と答えた中山間地域の市民の割合を表示しました。アンケートは毎年実施します。

目標値：目標は、5ポイント以上の上昇を目標とする場合には  と、現状維持を目標とする場合には  と記載しています。



## 4 暮らし続けられる生活環境の維持

### ～ 安全安心な暮らしの確保 ～

#### 現状と課題

中山間地域の生活を守るために、引き続き生活基盤を維持していくことが必要です。

生活に欠かせない道路は、急峻な地形を縫うようになっており、カーブや見通しの悪い箇所や幅員が狭い部分が多く、自動車の円滑な通行の支障となっています。また、地質がぜい弱なところも多く、降雨や融雪による土砂災害が発生しやすい地域となっています。

バスや乗合タクシーなどの公共交通機関の利用者は、人口の減少や自家用車の普及等により減少傾向となっていますが、学生の通学や高齢者をはじめとした交通弱者の通院、買物など、日常生活に必要な交通手段を維持・確保していく必要があります。

水量・水質が不安定な水源や老朽化が進む水道施設を抱えている地域があることから、安全な水道水の安定供給が求められています。また、下水道事業については、早期水洗化のため地域の状況に合った整備が必要です。

超高速ブロードバンドサービスの普及により、中山間地域の情報格差はほぼ解消されました。しかし、現在市が管理・運営しているケーブルテレビは施設整備から10年以上経過し、施設の老朽化も進み、その維持が課題となっています。

中山間地域では、ひとり暮らし高齢者の増加が予想されますが、住み慣れた地域で自分らしく生活하기를望んでいます。また、多様化する地域の福祉ニーズに対して、地域役員や支え合い活動の担い手が不足しています。

地域の小中学校は、今後も児童生徒数の減少が続くと考えられますが、その存続が求められています。また、遠距離通学や人家が無く距離が長い通学路などもあることから、安全で安心な通学の確保が課題となっています。

#### 施策と取組

(1) 生活基盤の整備・維持・確保 【情報政策課、地域活動支援課、環境政策課、監理課、道路課、維持課(土木事務所)、都市政策課、水道整備課、下水道施設課】

- ◇ 中山間地域での暮らしを支える小さな拠点づくりを推進し、日常生活に必要な機能について、計画的かつ継続的に維持・管理します。
- ◇ 国・県道については、国・県に対して整備の推進を積極的に働き掛けていきます。市道については、住民の日常生活や社会経済活動の基盤として、災害に強い交通ネットワークの確保と適切な道路管理に努め、年間を通して安全で円滑な道路交通の確保を図ります。
- ◇ 市営の上水道については、将来の給水量の減少を踏まえ、施設更新に当たっては適

正な規模に再構築し、無駄のない効率的な水道施設の更新を行いながら、水道水の安定的な供給を図ります。

また、下水道事業については、生活環境の改善及び公共用水域の水質保全のため、公共下水道、農業集落排水及び戸別浄化槽により地域の状況に合った整備を進めます。

- ◇ 地域の情報格差の解消を図る情報通信基盤(ケーブルテレビ)を安定して維持管理するとともに、施設の強靱化を含む、今後の運用管理のあり方と老朽化に伴う更新方法を検討します。
- ◇ 地域住民の活動・交流拠点の強化や、生活機能サービスの集約・確保、周辺との交通ネットワークの形成等により、利便性の高い地域づくりに向けて取り組む住民主体の取組体制を支援します。

#### (2) 地域公共交通の維持・確保 【交通政策課】

- ◇ 将来にわたり地域の交通手段を維持・確保していくため、地域住民と行政が「交通手段を自ら守り育てる」当事者意識を共有しながら、各地域の実情に応じた公共交通の在り方を考え、利用促進に取り組みます。
- ◇ 児童・生徒の通学や自動車の運転ができない高齢者の通院、買い物などの日常生活を支える移動手段を確保するため、生活拠点と広域拠点を結ぶ公共交通の維持・確保を図ります。

#### (3) 保健・医療・福祉の確保と充実 【福祉政策課、高齢者福祉課、介護保険課、障害福祉課、健康課、医療連携推進課、消防局総務課、警防課】

- ◇ 誰もが住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるよう、地域の保健、医療、福祉の連携体制の強化や福祉サービスの充実を図るとともに、地域福祉活動を行う多様な担い手の育成と確保を図ります。
- ◇ 中山間地域に居住していても適切な診療が受けられるように、国民健康保険診療所等の医療施設の充実を図るとともに効率的な運営を行い、地域医療体制の確保に努めます。
- ◇ 緊急時に、迅速かつ的確に対応できるように、住民が安心して暮らせる救急・救助体制の構築に努めます。

#### (4) 子育て・教育環境の整備と支援 【こども政策課、子育て支援課、保育・幼稚園課、教育委員会総務課、学校教育課、家庭・地域学びの課】

- ◇ 多様化する保育ニーズに対応できるように、延長保育、一時預かりなどの保育サービスの充実に努めます。
- ◇ 世代間の交流促進や児童の保護者に対する子育て支援体制の充実に努めます。

- ◇ 学校教育については、学校、家庭、地域、事業所等が連携した環境づくりと、特色ある教育、魅力ある学校づくりを推進するとともに、教育環境向上のための学校施設や学習環境の整備・充実を図ります。
- ◇ 遠距離通学等に対応した通学費の負担の軽減、及び通学手段の確保に努めます。
- ◇ 「放課後子ども総合プラン」を充実させ、放課後等の児童に安全・安心な居場所と各種体験活動の機会の提供を図ります。

(5) 防災・減災対策の推進

【危機管理防災課、道路課、河川課、消防局総務課、警防課】

- ◇ 中山間地域は、急傾斜地である上、地質がぜい弱で、降雨や融雪による地滑りなどの土砂災害が多発する地区が多いことから、危険箇所や防災資材を確認し、地域防災力の向上を図ります。
- ◇ 風水害等の自然災害から住民の生命・財産を守るため、治山・治水事業や雪害対策等の保全事業と災害を未然に防ぐ道路防災事業を推進します。
- ◇ 消防団への加入促進や地域ぐるみの防災体制の整備を進めます。また、日ごろからの備えとして、地域の連携強化と自主防災体制の整備を推進します。

■ 施策及び主要事業

大施策	施策	主要事業
4 暮らし続けられる生活環境の維持	(1) 生活基盤の整備・維持・確保  (情報政策課、地域活動支援課、環境政策課、監理課、道路課、維持課(土木事務所)、都市政策課、水道整備課、下水道整備課)	ケーブルテレビ施設管理事業 大岡浅刈小水力発電 地籍調査 道路整備事業 道路維持管理事業 建設機械等整備事業 小さな拠点づくり事業 戸隠・新町街なみ環境整備事業 水道施設整備事業 戸別浄化槽事業 公共下水道事業 防犯灯設置等補助金 (仮称)中条総合市民センター建設事業

### Ⅲ 主要施策の展開 4 暮らし続けられる生活環境の維持

4 暮らし続けられる生活環境の維持	(2) 地域公共交通の維持・確保 (交通政策課)	市バス等運行事業 中山間地域輸送システム運行費補助金 コミュニティバス運行事業補助金 路線バス維持活性化補助金
	(3) 保健・医療・福祉の確保と充実 (福祉政策課、高齢者福祉課、介護保険課、障害福祉課、健康課、医療連携推進課、消防局総務課、警防課)	緊急通報システム設置事業 地域たすけあい事業 高齢者生活福祉センター運営事業 ふれあい会食・自宅訪問活動事業補助金 戸隠授産所施設整備 国民健康保険特別会計(直診勘定) 診療施設・医療機器等整備事業
	(4) 子育て・教育環境の整備と支援 (地域活動支援課、こども政策課、子育て支援課、保育・幼稚園課、教育委員会総務課、学校教育課、家庭・地域学びの課)	過疎地域高校生通学費補助金 子育て支援事業 放課後子ども総合プラン推進事業 学校施設整備事業 遠距離通学費助成金事業 通学援助事業
	(5) 防災・減災対策の推進 (危機管理防災課、道路課、河川課、消防局総務課、警防課)	災害応急対策事業 住宅除雪支援員派遣事業(戸隠・鬼無里) 中山間地域雪下ろし補助事業 防災行政無線デジタル化事業 道路防災事業 危険溪流・地すべり・急傾斜地崩壊対策事業 河川改修事業 自主防災組織強化事業 消火栓工事負担金・消防水利整備事業

#### ■ 目指すべき指標等

【アンケート指標：中山間地域の市民が思う割合】	現状値 (H28)	目標 (H33)
子どもを産み育てやすい地域である	50.0%	
家庭・地域・学校が連携して、子どもたちの学びや育ちを支えている	59.9%	
高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境が整っている	35.3%	
災害時に被害を最小限に抑制できる体制や準備が整っている	40.5%	
必要な医療サービスを受けられる体制が整っている	52.6%	
日常生活に必要なインフラが整備されている	44.4%	
公共交通を、自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている	49.1%	

■ アンケート指標について

現状値：第五次長野市総合計画策定のための市民アンケートの有効回答のうち、「そう思う」「ややそう思う」と答えた中山間地域の市民の割合を表示しました。アンケートは毎年実施します。

目標値：目標は、5ポイント以上の上昇を目標とする場合には ↗ と、現状維持を目標とする場合には ⇨ と記載しています。





## IV 中山間地域の状況

### 1 数字で見る地域の現状と課題

地域の世帯数と人口の推移（国勢調査）

各年 10月1日現在

		昭和40年	昭和50年	昭和60年	平成7年	平成17年	平成27年	増減率(%) H27/S40
市 全 域	世帯数	74,096	95,897	112,301	133,196	144,052	150,414	103.00
	人口	310,399	342,120	369,023	387,359	386,572	377,598	21.65
中山間地域	世帯数	13,182	13,412	14,395	14,576	14,226	13,054	△0.97
	※割合(%)	17.8	14.0	12.8	10.9	9.9	8.7	
	人口	60,110	52,697	51,866	46,262	40,166	33,018	△45.07
	※割合(%)	19.4	15.4	14.1	11.9	10.4	8.7	
浅川地区	世帯数	808	1,431	2,309	2,500	2,529	2,529	213.00
	人口	3,759	5,537	8,363	7,864	7,140	6,702	78.29
小田切地区	世帯数	495	390	494	489	468	453	△8.48
	人口	2,347	1,650	1,835	1,602	1,298	1,054	△55.09
芋井地区	世帯数	695	649	715	763	845	840	20.86
	人口	3,483	2,842	2,829	2,662	2,504	2,137	△38.64
篠ノ井地区 (信里)	世帯数	519	481	477	472	463	455	△12.33
	人口	2,477	2,110	1,972	1,638	1,405	1,248	△49.62
松代地区 (西条・豊栄)	世帯数	864	857	1,030	1,170	1,226	1,262	46.06
	人口	4,148	3,573	3,839	3,915	3,649	3,248	△21.70
若穂地区 (保科)	世帯数	592	879	965	1,054	1,066	1,044	76.35
	人口	2,841	3,648	3,778	3,623	3,385	3,052	7.43
七二会地区	世帯数	861	817	839	809	749	638	△25.90
	人口	3,962	3,190	3,053	2,633	2,118	1,622	△59.06
信更地区	世帯数	1,075	1,021	998	979	931	833	△22.51
	人口	4,964	4,203	3,848	3,301	2,768	2,051	△58.68
戸隠地区	世帯数	1,697	1,603	1,586	1,601	1,552	1,375	△18.97
	人口	7,547	6,225	5,866	5,218	4,467	3,499	△53.64
鬼無里地区	世帯数	1,032	937	895	878	781	645	△37.50
	人口	4,397	3,603	2,864	2,523	1,983	1,393	△68.32
大岡地区	世帯数	787	712	727	625	594	473	△39.90
	人口	3,405	2,477	2,103	1,602	1,389	960	△71.81
信州新町地区	世帯数	2,486	2,427	2,287	2,190	2,049	1,719	△30.85
	人口	11,324	9,323	7,881	6,596	5,535	4,135	△63.48
中条地区	世帯数	1,271	1,208	1,073	1,046	973	788	△38.00
	人口	5,456	4,316	3,635	3,085	2,525	1,917	△64.86

※ 中山間地域欄の「割合」とは、中山間地域/市全域を示しています。

#### IV 中山間地域の状況 1 数字で見る地域の現状と課題

市全体では、世帯数は増加を続けていますが、人口は平成 17 年から減少に転じています。一方、中山間地域では、世帯数は既に微増から減少に転じ、人口は年々減少を続けています。

地区別の人口をみると、平成 17 年と比較して、すべての地区で減少しています。

昭和 40 年から平成 27 年までの 50 年間で、鬼無里地区では 68.32%、大岡地区では 71.81%、中条地区では 64.86%減少しています。

中山間地域の世帯数と人口の推移



中山間地域の人口は減少を続け、昭和 40 年から平成 27 年までの 50 年間で、60,110 人から 33,018 人と 45.07%減少しています。

世帯数については、昭和 40 年から平成 7 年まで微増傾向でありましたが、平成 7 年から減少が続いています。

#### IV 中山間地域の状況 1 数字で見る地域の現状と課題

次の表は、住民基本台帳による平成 23 年から平成 28 年までの中山間地域の毎年の世帯数と人口の推移を示したものです。

住民基本台帳からみた世帯数と人口の推移

各年 4 月 1 日現在

		平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	増減率 (%) H28/H23
市 全 域	世帯数	154,127	155,004	153,202	156,130	157,095	158,549	2.87
	人口	386,026	385,150	387,146	384,202	382,738	382,141	△1.01
中山間地域	世帯数	15,098	14,922	15,202	14,823	14,662	14,546	△3.66
	※割合(%)	9.8	9.6	9.9	9.5	9.3	9.2	
	人口	37,531	36,695	38,369	35,933	35,001	34,231	△8.79
	※割合(%)	9.7	9.5	9.9	9.4	9.1	9.0	
浅川地区	世帯数	2,839	2,820	2,808	2,817	2,824	2,826	△0.46
	人口	7,165	7,095	7,214	7,007	6,949	6,893	△3.80
小田切地区	世帯数	491	459	504	451	448	445	△9.37
	人口	1,130	1,063	1,170	1,042	1,004	962	△14.87
芋井地区	世帯数	999	991	993	987	968	966	△3.30
	人口	2,487	2,448	2,518	2,400	2,315	2,275	△8.52
篠ノ井地区 (信里)	世帯数	493	494	494	502	510	511	3.65
	人口	1,319	1,302	1,344	1,291	1,282	1,263	△4.25
松代地区 (西条・豊栄)	世帯数	1,328	1,312	1,320	1,313	1,314	1,312	△1.20
	人口	3,549	3,482	3,594	3,418	3,355	3,324	△6.34
若穂地区 (保科)	世帯数	1,189	1,182	1,203	1,173	1,180	1,178	△0.93
	人口	3,404	3,346	3,472	3,296	3,253	3,199	△6.02
七二会地区	世帯数	826	825	833	812	789	766	△7.26
	人口	1,887	1,863	1,953	1,803	1,725	1,650	△12.56
信更地区	世帯数	992	984	1,010	974	946	934	△5.85
	人口	2,440	2,384	2,531	2,299	2,224	2,149	△11.93
戸隠地区	世帯数	1,602	1,583	1,617	1,575	1,556	1,526	△4.74
	人口	4,134	4,018	4,242	3,950	3,827	3,708	△10.30
鬼無里地区	世帯数	756	739	766	727	708	685	△9.39
	人口	1,754	1,685	1,787	1,624	1,549	1,474	△15.96
大岡地区	世帯数	569	564	584	557	545	541	△4.92
	人口	1,145	1,109	1,201	1,090	1,042	1,009	△11.88
信州新町地区	世帯数	2,076	2,056	2,112	2,034	1,994	1,972	△5.01
	人口	4,926	4,798	5,090	4,668	4,491	4,399	△10.70
中条地区	世帯数	938	913	958	901	880	884	△5.76
	人口	2,191	2,102	2,253	2,045	1,985	1,926	△12.09

※ 中山間地域欄の「割合」とは、中山間地域/市全域を示しています。

ほとんどの地区で、毎年人口が減少しています。特に小田切、七二会、信更、戸隠、鬼無里、大岡、信州新町及び中条地区の 8 地区においては、5 年前と比較して減少率が 10% を超えています。今後も、中山間地域の人口は引き続き減少することが予想されます。

#### IV 中山間地域の状況 1 数字で見る地域の現状と課題

次の表は、中山間地域の年齢3区分の人口の状況を示したものです。

地区別年齢3区分別人口の状況（国勢調査）

各年10月1日現在

		平成7年		平成17年		平成27年		増減率(%) H27/H7			
		人口	比率(%)	人口	比率(%)	人口	比率(%)				
市 全 域	14歳以下	387,359	63,660	16.4	386,572	56,369	14.6	377,598	49,052	13.0	△ 22.95
	15～64歳		258,589	66.8		245,014	63.4		216,734	57.4	△16.19
	65歳以上		65,110	16.8		85,189	22		106,007	28.1	62.81
中山間地域	14歳以下	46,262	6,182	13.4	40,166	4,323	10.8	33,018	2,888	8.7	△53.28
	15～64歳		27,888	60.3		22,022	54.8		15,950	48.3	△42.80
	65歳以上		12,192	26.4		13,821	34.4		14,044	42.5	15.19
浅川地区	14歳以下	7,864	1,174	14.9	7,140	856	12	6,702	793	11.8	△32.45
	15～64歳		5,464	69.5		4,375	61.3		3,290	49.1	△39.79
	65歳以上		1,226	15.6		1,909	26.7		2,553	38.1	108.29
小田切地区	14歳以下	1,602	217	13.5	1,298	105	8.1	1,054	51	4.8	△76.50
	15～64歳		1,016	63.4		730	56.2		547	51.9	△46.16
	65歳以上		369	23		463	35.7		455	43.2	23.30
芋井地区	14歳以下	2,662	403	15.1	2,504	275	11	2,137	185	8.7	△54.09
	15～64歳		1,596	60.0		1,516	60.5		1,136	53.2	△28.82
	65歳以上		663	24.9		713	28.5		810	37.9	22.17
篠ノ井地区 (信里)	14歳以下	1,638	177	10.8	1,405	138	9.8	1,248	119	9.5	△32.77
	15～64歳		1,013	61.8		779	55.4		581	46.6	△42.65
	65歳以上		448	27.4		488	34.7		547	43.8	22.10
松代地区 (西条・豊栄)	14歳以下	3,915	622	15.9	3,649	526	14.4	3,248	374	11.5	△39.87
	15～64歳		2,463	62.9		2,230	61.1		1,859	57.2	△24.52
	65歳以上		830	21.2		893	24.5		1,000	30.8	20.48
若穂地区 (保科)	14歳以下	3,623	540	14.9	3,385	469	13.9	3,052	357	11.7	△33.89
	15～64歳		2,419	66.8		2,044	60.4		1,672	54.8	△30.88
	65歳以上		664	18.3		872	25.8		1,017	33.3	53.16
七二会地区	14歳以下	2,633	325	12.3	2,118	177	8.4	1,622	111	6.8	△65.85
	15～64歳		1,491	56.6		1,113	52.5		750	46.2	△49.70
	65歳以上		817	31		828	39.1		760	46.9	△6.98
信更地区	14歳以下	3,301	448	13.6	2,768	275	9.9	2,051	110	5.4	△75.45
	15～64歳		1,901	57.6		1,479	53.4		945	46.1	△50.29
	65歳以上		952	28.8		1,014	36.6		993	48.4	4.31
戸隠地区	14歳以下	5,218	677	13	4,467	441	9.9	3,499	261	7.5	△ 61.45
	15～64歳		2,936	56.4		2,331	52.2		1,627	46.5	△44.58
	65歳以上		1,605	30.8		1,695	37.9		1,606	45.9	0.06
鬼無里地区	14歳以下	2,523	245	9.7	1,983	182	9.2	1,393	72	5.2	△ 70.61
	15～64歳		1,424	56.5		877	44.2		530	38.0	△62.78
	65歳以上		854	33.8		924	46.6		788	56.6	△ 7.73
大岡地区	14歳以下	1,602	150	9.4	1,389	138	9.9	960	56	5.8	△ 62.67
	15～64歳		816	50.9		605	43.6		397	41.4	△51.35
	65歳以上		636	39.7		646	46.5		506	52.7	△ 20.44
信州新町地区	14歳以下	6,596	863	13.1	5,535	523	9.4	4,135	257	6.2	△ 70.22
	15～64歳		3,694	56.0		2,762	49.9		1,871	45.2	△49.35
	65歳以上		2,039	30.9		2,250	40.7		1,991	48.1	△ 2.35
中条地区	14歳以下	3,085	341	11.1	2,525	218	8.6	1,917	142	7.4	△ 58.36
	15～64歳		1,655	53.6		1,181	46.8		745	38.9	△54.98
	65歳以上		1,089	35.3		1,126	44.6		1,018	53.1	△ 6.52

※ 人口の合計には、年齢不詳者数を含んでいるため、年代別の合計とは合いません。

## IV 中山間地域の状況 1 数字で見る地域の現状と課題

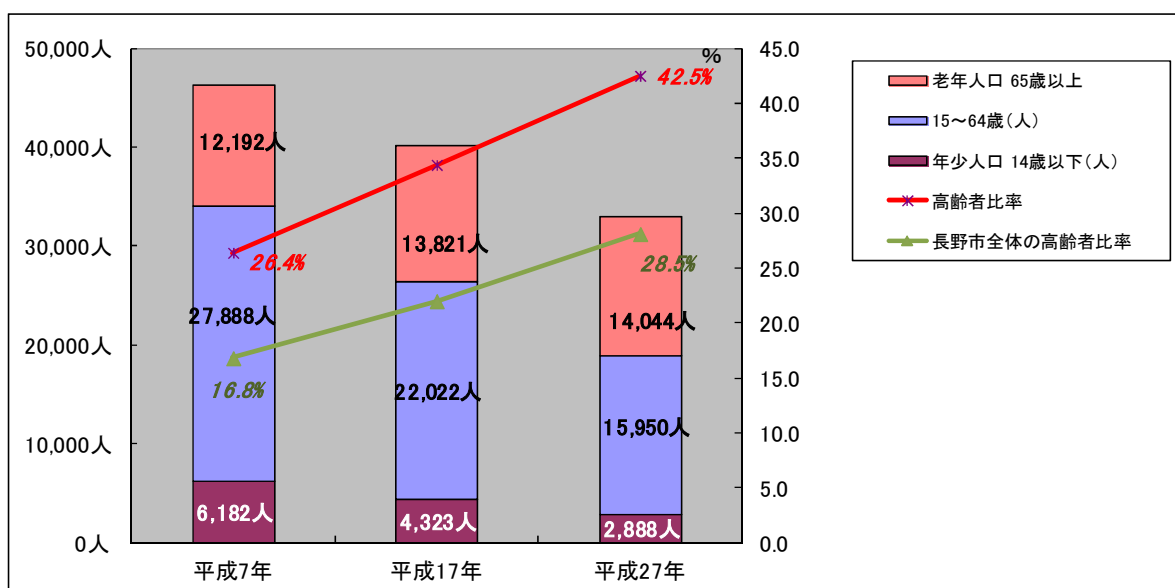
14歳以下の年少人口比率をみると、平成27年において10%を下回っている地区が10地区あり、特に、小田切地区は5%を下回っています。

65歳以上の老年人口比率をみると、平成27年の市全体では28.1%で、平成17年からの10年間で6.1ポイントの増加となっています。一方、中山間地域の平成27年の比率は42.5%で、10年間に8.1ポイント増加しています。特に、鬼無里、大岡、中条地区では50%を上回っており、中山間地域における高齢化が急速に進行しています。

生産年齢人口(15~64歳)についてみると、市全体で57.4%となっていますが、中山間地域では、48.3%と、10ポイント以上下回っています。特に、鬼無里、中条地区では40%を下回っており、労働力の低下が懸念されます。

また、信更、鬼無里、大岡、中条の4地区では、20年前の平成7年と比べて半分以下に減っています。

中山間地域の年少人口と老年人口の状況



※ 年齢不詳の人口は人数に含んでいません。

#### IV 中山間地域の状況 1 数字で見る地域の現状と課題

次の表は、住民基本台帳による平成 23 年から平成 28 年まで年齢 3 区分別の人口比率の推移を示したものです。

住民基本台帳からみた年齢 3 区分の人口比率の推移 各年 4 月 1 日現在

	人口比率 (%)	A					B		増減 B-A (ポイント)
		平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年		
市 全 域	14 歳以下	13.9	13.8	13.7	13.5	13.4	13.2	△0.7	
	15 歳～64 歳	61.6	61.2	60.5	59.8	59.2	58.8	△ 2.8	
	65 歳以上	24.5	25.0	25.8	26.7	27.4	28.0	3.5	
中山間地域	14 歳以下	9.4	9.1	8.9	8.7	8.5	8.3	△1.1	
	15 歳～64 歳	53.7	53.4	52.3	51.2	50.2	49.2	△ 4.5	
	65 歳以上	36.9	37.5	38.8	40.1	41.3	42.5	5.6	
浅川地区	14 歳以下	12.1	12.2	12.1	12.0	12.0	11.9	△0.2	
	15 歳～64 歳	57.1	56.1	54.3	52.9	51.6	50.6	△ 6.5	
	65 歳以上	30.8	31.7	33.6	35.1	36.4	37.5	6.7	
小田切地区	14 歳以下	5.0	4.5	3.9	3.7	3.7	3.4	△1.6	
	15 歳～64 歳	54.2	54.3	53.2	53.4	51.5	49.2	△ 5.0	
	65 歳以上	40.8	41.2	42.9	42.9	44.8	47.4	6.6	
芋井地区	14 歳以下	8.6	8.6	8.7	8.6	8.1	7.7	△0.9	
	15 歳～64 歳	59.5	58.5	56.6	55.1	54	53.4	△ 6.1	
	65 歳以上	31.9	32.9	34.7	36.3	37.9	38.9	7.0	
篠ノ井地区 (信里)	14 歳以下	9.2	9.5	9.4	9.7	9.4	8.9	△0.3	
	15 歳～64 歳	53.1	52.4	52	50.6	48.7	47.5	△ 5.6	
	65 歳以上	37.7	38.1	38.6	39.7	41.9	43.6	5.9	
松代地区 (西条・豊栄)	14 歳以下	12.6	12.0	11.7	11.7	11.4	11.5	△1.1	
	15 歳～64 歳	60	60	59.6	58.7	57.9	56.7	△ 3.3	
	65 歳以上	27.4	28.0	28.7	29.6	30.7	31.8	4.4	
若穂地区 (保科)	14 歳以下	12.1	11.9	11.9	11.5	11.7	11.1	△1.0	
	15 歳～64 歳	59	58.3	57.3	56.4	55.7	55.3	△ 3.7	
	65 歳以上	28.9	29.8	30.8	32.1	32.6	33.6	4.7	
七二会地区	14 歳以下	7.2	6.8	6.8	6.6	6.3	6.5	△0.7	
	15 歳～64 歳	51	50.8	49.4	48	47.1	45.8	△ 5.2	
	65 歳以上	41.8	42.4	43.8	45.4	46.6	47.7	5.9	
信更地区	14 歳以下	6.8	6.0	6.1	5.3	5.2	4.5	△2.3	
	15 歳～64 歳	52.8	52.9	51.1	49.7	48.2	46.4	△ 6.4	
	65 歳以上	40.4	41.1	42.8	45.0	46.6	49.1	8.7	
戸隠地区	14 歳以下	8.5	8.0	7.5	7.1	7.2	7.0	△1.5	
	15 歳～64 歳	52.6	52.3	51.3	50.4	48.9	47.9	△ 4.7	
	65 歳以上	38.9	39.7	41.2	42.5	43.9	45.1	6.2	
鬼無里地区	14 歳以下	7.2	6.7	6.2	6.1	5.3	4.7	△2.5	
	15 歳～64 歳	43.1	42.9	42.1	40.6	40.6	39.1	△ 4.0	
	65 歳以上	49.7	50.4	51.7	53.3	54.1	56.2	6.5	
大岡地区	14 歳以下	6.9	6.2	5.5	5.1	4.5	4.9	△2.0	
	15 歳～64 歳	43.2	42.9	42.4	42.6	42.7	41.9	△ 1.3	
	65 歳以上	49.9	50.9	52.1	52.3	52.8	53.2	3.3	
信州新町地区	14 歳以下	7.4	7.3	6.9	6.6	6.0	5.9	△1.5	
	15 歳～64 歳	50.3	49.4	49.2	48.8	47.8	46.9	△ 3.4	
	65 歳以上	42.3	43.3	43.9	44.6	46.2	47.2	4.9	
中条地区	14 歳以下	8.1	7.9	7.8	7.9	7.7	7.1	△1.0	
	15 歳～64 歳	46.7	46.5	45.4	43.6	42.3	41.8	△ 4.9	
	65 歳以上	45.2	45.6	46.8	48.5	50.0	51.1	5.9	

#### IV 中山間地域の状況 1 数字で見る地域の現状と課題

14 歳以下の年少人口比率をみると、中山間地域の平成 28 年の比率は 8.3%で、平成 23 年からの 5 年間に 1.1 ポイントの減少となっています。中山間地域のほとんどの地区で 10%を下回っており、特に、小田切地区では 3.4%となっています。

65 歳以上の老年人口比率をみると、平成 28 年の市全体では 28.0%で、平成 23 年からの 5 年間で 3.5 ポイントの増加となっています。一方、中山間地域の平成 28 年の比率は 42.5%で、5 年間に 5.6 ポイント増加しています。9 地区で 40%を上回っており、中でも鬼無里、大岡及び中条地区では、50%を超える比率となっています。

15～64 歳の生産年齢人口比率をみると、中山間地域の平成 28 年の比率は、49.2%で約半数を占めています。しかし、鬼無里、大岡、中条地区では 40%前後となっています。

次の表は、一部地域を指定している篠ノ井、松代及び若穂地区を除く 10 地区の主要公共施設等の整備状況を示したものです。

(平成 27 年度末現在)

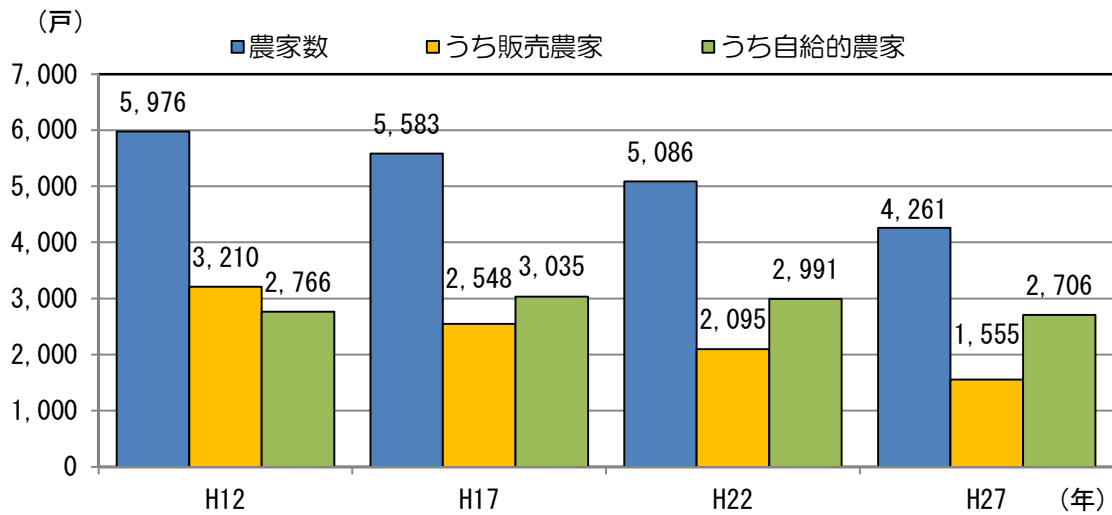
区 分	中山間地域	長野市全体
市道改良率(%)	31.9	45.9
市道舗装率(%)	68.8	81.7
農道延長 (m)	304,059	801,818
農道舗装率 (%)	72.8	60.0
林野 1 h a 当たり林道延長 (m)	5.8	7.7
下水道普及率(%)	76.8	97.3

整備状況を示す数値は、農道舗装率を除き、いずれも長野市全体と比べ、中山間地域が低いものとなっています。

#### IV 中山間地域の状況 1 数字で見る地域の現状と課題

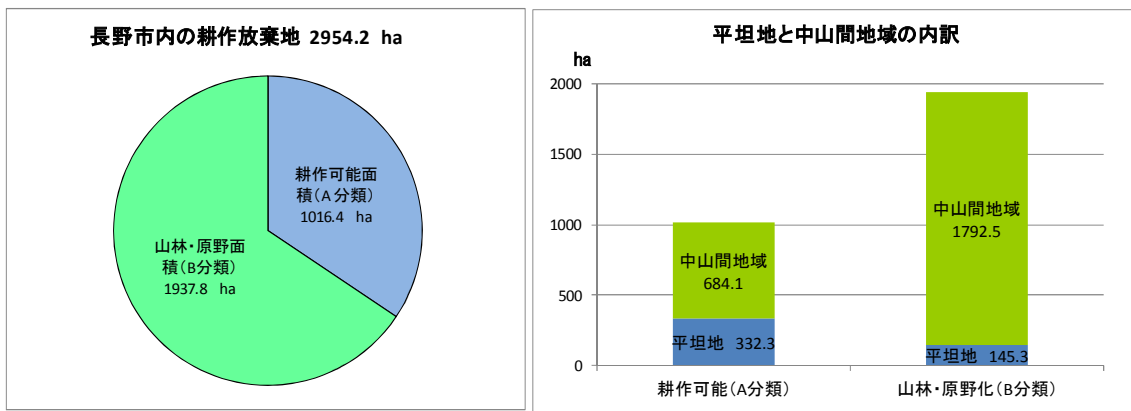
次の表は、中山間地域の農家戸数の推移を示したものです。

##### ■ 中山間地域の農家数



中山間地域の農家戸数は、平成12年から平成27年の15年間で1,715戸、28.7%減少しています。また、販売農家数は1,655戸、51.6%減少しています。

次の表は、長野市内の耕作放棄地の状況を示したものです。



長野市内全体の耕作放棄地は2954.2haで、このうち中山間地域が全体の8割を占めています。



#### IV 中山間地域の状況 1 数字で見る地域の現状と課題

次の表は野生鳥獣による農作物の被害の状況です。(平成 27 年度)

(単位：千円)

種別	地区	地区													
		篠ノ井	松代	若穂	信更	大岡	浅川	芋井	小田切	七二会	戸隠	鬼無里	信州 新町	中条	合計
主な 鳥 獣	スズメ	60	304	0	59	82	0	0	0	223	0	1,497	122	203	2,550
	カラス	700	1,185	1,000	745	37	35	30	70	2	50	17	823	112	4,806
	ムクドリ	0	0	200	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	216
	ヒヨドリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	20
	クマ	0	101	850	0	0	0	580	100	0	300	120	16	0	2,067
	イノシシ	681	1,872	1,318	250	801	347	957	719	762	189	2,036	373	1,407	11,712
	ニホンザル	0	851	350	0	0	0	0	0	0	115	2,215	0	0	3,531
	カモシカ	0	230	130	0	0	0	0	100	0	0	0	164	0	624
	ニホンジカ	1,161	552	250	1,526	186	624	80	1,630	434	0	175	596	312	7,526
	ハクビシン	245	2,194	200	0	362	72	55	650	230	9	74	298	181	4,570
その他鳥獣	60	158	0	0	113	21	70	190	395	25	1,107	484	258	2,881	
合計	2,907	7,447	4,298	2,580	1,581	1,099	1,772	3,459	2,046	688	7,241	2,912	2,473	40,503	

イノシシによる被害が最も多く、次いでニホンジカ、カラスで、この 3 鳥獣による被害が全体の約 6 割を占めています。

(参考) 長野市の鳥獣害の推移

(単位：千円)

種類	主な鳥類				主な獣類						その他 鳥獣	合計
	スズメ	カラス	ムク ドリ	ヒヨ ドリ	イノシ シ	ニホン ザル	クマ	カモ シカ	ニホン ジカ	ハク ビシン		
H22	2,858	16,269	1,693	1,206	23,618	4,229	2,475	499	10,809	4,725	4,964	73,345
H23	2,872	14,652	1,786	1,252	25,337	4,230	2,909	659	11,125	5,825	6,871	77,518
H24	2,862	13,470	1,814	1,590	18,222	4,132	4,097	634	11,271	6,618	7,680	72,390
H25	2,970	13,682	1,662	1,479	17,130	3,757	3,619	510	10,832	6,314	5,981	67,936
H26	3,342	14,066	1,998	1,943	15,461	3,772	3,354	682	10,932	5,914	6,302	67,766
H27	3,250	12,832	1,996	1,932	12,356	3,587	2,067	688	10,403	5,672	7,268	62,051

2 地区ごとの将来像と現況及び課題

浅川地区

平成 29 年 1 月 1 日現在

人 口	6,865 人 (男 3,289 人 女 3,576 人)
世帯数	2,830 世帯
面積	24.77 km <sup>2</sup>
65 歳以上人口	2,529 人
高齢化率	37.8%



地区の皆さんが思い描く将来像や方向性

ブランド薬師、西条諏訪社、朝川原神社、逆谷地湿原、鎧田などの史跡・名勝地、ループ橋、スパイラルなどの施設等、豊かで多彩な地域資源を活かすとともに、全国にも稀な「穴あきダム」＝浅川ダム竣工後の周辺整備とも連動し、「誰もが安心して暮らせる魅力あるふるさと浅川」の再構築と地域活性化を目指します。

地勢及び歴史

浅川地区は、市中心部の北に位置し、面積で約 9 割が中山間地域、残りが平坦地となっており、地区内の最高地点は飯綱山山頂の下で約 1,765m、最低地点は神楽橋区の南で約 410m と、地区内の標高差は 1,355m になっています。

中山間地域の地形は起伏に富み、北に飯縄山・三登山を背負い、浅川、南浅川、駒沢川が流れて渓谷をつくっています。

飯綱高原には、約 10 万年前から続く逆谷地湿原があるなど、豊かな自然に囲まれており、地区の一部は、妙高戸隠連山国立公園の指定を受けています。

地区の歴史は古く、飯綱高原には旧石器時代の飯綱大池・飯綱猫又池遺跡があり、浅川福岡区などには古墳も残っています。

明治 22 年に上水内郡伺去真光寺村、北郷村、西条村及び東条村の一部、3 村 1 組が合併して浅川村となり、その後、昭和 29 年に長野市と合併して現在に至っています。

産業構造及び地域の特性等

(農業)

農業が産業の中心であり、りんご、高原野菜などが主な作物となっています。地区内には農産物直売所が複数あり、地元農家が新鮮な農産物を出荷しています。

農家経営は、兼業農家が多く、農業従事者の高齢化が進展しており、また近年は、野生

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

鳥獣による農業被害が多発し、深刻な状況となっています。さらに、後継者不足やそれに伴う農地の荒廃地化等が課題となっています。

### (林業)

林業については、国・県の補助事業を活用し、長野森林組合や地元林業事業体などが間伐作業を中心に森林整備を行っています。木材価格の低迷・森林所有者の高齢化などにより、森林整備への関心が低下し、手入れがされない放置森林の増加が課題となっています。そこで、平成 28 年に地元において里山整備団体が設立され、浅川地区内の里山の手入れを行うこととしています。

### (観光、文化財等の地域資源)

浅川地区には、長野冬季オリンピックで使用された「長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)」やゴルフ場があり、ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)については、今後の在り方について検討が行われています。

真光寺ループ橋の西側の薬山には懸崖造りの「ブランド薬師」があり、一帯は公園として利用され、地域の皆さんによる公園道の整備等が実施されています。

真光寺ループ橋下部には、石油井戸が残されており、また、地域住民が維持管理しているマレットゴルフ場があり、草刈・植樹などの活動が行われています。

浅川ダムが平成 29 年 3 月に竣工したことに伴い、その周辺施設である、これらループ橋、ブランド薬師等を活用する総合的なまちづくりが必要となっています。

### (その他地域特性等)

浅川地区は、地区の面積の約 9 割が中山間地域ですが、そこに暮らしているのは地区人口の約 1 割で、中山間地域との生活環境も大きく異なります。地区内の課題も、中山間地域と平坦地の両方の側面を抱えています。

## 集落の状況

中山間地域の人口は、浅川地区全域の約 1 割を占めていますが、近年減少傾向にあり、高齢化率は上昇してきています。

中山間地域の集落は行政連絡区ごとに形成され、そのうち 20 世帯以下の集落が過半数を占めています。

いずれの集落も人口減少、少子・高齢化が進行しています。高齢化率が 50%を超える限界集落もあり、地区役員の確保が困難となっています。また、地区活動が一部行われていない集落も現れています。

中山間地域のすべての集落で、生活道路などの支障木の枝払い、側溝水路清掃、草刈、除雪などの共同作業が行われていますが、一部においては、高齢化・過疎化により共同作業が困難となりつつある集落もあります。

春と秋の祭りについては、保存会を結成し神楽や獅子舞を奉納している区もありますが、世帯数が減少して若者の参加がなく、神楽や獅子舞を継続できなくなっている区もあります。

### 生活・交通基盤の整備状況

#### (道路)

主要地方道長野信濃線が飯綱町方面へ、県道戸隠高原浅川線が飯綱高原方面及び戸隠方面へ通じています。中山間地域の各集落を結ぶ市道や農道は、急カーブや狭い箇所が多い状況です。また、都市計画道路返目浅川線の未整備区間は、車の通行量が増えており、危険な状況となっています。

#### (公共交通等)

地区内を通る路線バスが民間バス会社により3路線運行されており、そのうち1路線は山間部へ向かっているものの、戸隠方面への観光客向けのダイヤ編成となっていることから、通勤・通学や買い物には利便性が低い状況です。

また、地区の住民自治協議会が主体となって、一部デマンド方式による乗合タクシー「あさかわ号」を週5日運行しています。

要介護等の認定を受けていて、公共交通機関等での通院が困難な方は、福祉自動車を利用しています。

#### (防災・生活安全)

消防団員の高齢化が進行し、消防団員の確保が難しくなっています。

同報無線屋外拡声子局の設置が必要な箇所があります。

#### (上下水道)

上水道については、概ね市営水道が整備されています。

大池南区の水道は簡易給水施設として民間事業者が井戸から飲料水を供給しています。

下水道については、大池南区、門沢区、浅川畑山区、三ツ出区、台ヶ窪区、浅川清水区、坂中区は、合併浄化槽により水洗化を図っています。その他の区は公共下水道事業、農業集落排水事業により整備が完了しています。

#### (買い物)

中山間地域では、日ごろの買い物を地元でまかなうことは難しく、市街地や周辺地区の店舗を利用しています。

#### (保健・福祉)

中山間地域では、一人暮らしの高齢者が増加しており、有事の際の救急体制が課題となっています。

小田切地区

平成 29 年 1 月 1 日現在

人 口	944 人 (男 479 人 女 465 人)
世帯数	445 世帯
面積	18.42 km <sup>2</sup>
65 歳以上人口	455 人
高齢化率	48.2%



塩生のエドヒガン

**地域の皆さんが思い描く将来像や方向性**

地域住民が総結集して活力ある地域づくりをスローガンに掲げ、持続的な地域住民の福祉活動、利便性のある交通体系の整備に取り組みます。

小田切地域の強みであり、独自の地域資源であるアマワラビの栽培を手がけている団体と協働連携し、地域が元気になることを目指します。

**地勢及び歴史**

小田切地区は、善光寺平西北部に位置し、いわゆる西山地域と呼ばれ、標高 998m の富士ノ塔山を頂点に、東西 5.9km、南北 5.6km の範囲で、高低差 500m の急峻な地形に小規模な集落が点在しています。

「小田切」の名は、鎌倉時代に、地頭小田切氏が領有していたことによるといわれ、古くから開けた土地で、馬神・川後からは縄文期の石遺物を出土し、馬神や吉窪には古墳群があります。

明治 22 年に塩生村、小鍋村及び山田中村の 3 村が合併して小田切村となり、その後、昭和 29 年に長野市と合併して現在に至っています。

平成 9 年には、生徒数の減少により、122 年の歴史がある小田切小学校が閉校となり、翌年には小田切中学校が閉校となっています。

**産業構造及び地域の特性等**

(農業)

農業については、標高 400m から 950m の間に平均斜度 20 度から 30 度の耕地が分布しており、耕作条件も北面と南面ではっきりと分かれています。条件の悪い地形や水源に乏しい耕地では、穀類、煙草、養蚕、酪農が営まれてきましたが、現在ではりんごの栽培が主なものになっています。

農家経営は、専業農家が多く、農業従事者の高齢化が進行しており、また近年は、野生鳥獣による農業被害が多発し、深刻な状況となっています。

最近では、地区の遊休農地活性化委員会の取組みとして、耕作放棄地を活用したワラビ栽培や、「信州里山塾（主催：(公社)長野青年会議所）」として、市内小学生の親子を対象とし

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

た農業体験学習が開催されました（平成 23 年度まで）。

また、平成 25 年に NPO 法人小田切オアシスが設立され、耕作放棄地の復元事業や、市民菜園の開園など地域活性化に向けた動きも始まっています。

（林業）

戦後、植林したものが伐採期に入っていますが、森林の手入れが遅れ、さらに、木材価格の低迷により大きな収入源になっていません。

（観光、文化財等の地域資源）

観光面については、富士ノ塔山への登山や小田切八景などについて観光資源として活用が図られるよう、住民自治協議会が取り組みを続けています。また、青少年錬成センター事業として、閉校となった小学校の校舎を利用して、地区外の子どもの野外学習活動も実施されています。

富士ノ塔山頂には、展望台や案内板が設置されており、南は川中島平から、浅間山、菅平が望め、北は戸隠連峰、飯縄山等の眺望を楽しむことができます。

日方集落入り口にある「塩生のエドヒガン（巡礼桜）」は、推定樹齢約 700 年の古木で市の天然記念物に指定されており、地区の「巡礼桜保存会」が管理を行っています。近くには東屋が設置され、北アルプスの眺望を楽しむことができます。

（その他の地域特性等）

地元有志による耕作放棄地を活用したワラビ栽培などで、都市部との交流事業が行われています。

### 集落の状況

標高 400m～950mの間に 11 地区、41 の集落、2 つの団地から形成されており、中心地となる大きな集落はなく、ほぼ全域的に点在しています。

地区の戸数のうち約 3 分の 1 は、第一地区（茂菅）に隣接し近年造成された裾花・地藏平の両団地であり、残りの約 3 分の 2 が 41 の集落に分散しています。

いずれの集落も人口減少、少子・高齢化が進行しており、従来から行ってきた地区内の側溝清掃や生活道路の草刈などの共同作業を行うことが困難な地区も増えてきています。

また、高齢者世帯の雪かき等も困難になってきており、同じ集落の人に頼みたくても集落のほとんどが高齢者という地区もあります。

人口は、昭和以降、3 千人前後で推移していましたが、昭和 30 年頃から、主力の養蚕が斜陽産業となるなど、農業での生活が困難になったことから、仕事を求めて若年者の流出が続きました。その後も、高校・大学等を卒業すると村を出ていく農家の子供が多くなり、人口減少が続き、現在は 1,000 人を割る状況となっています。

中心市街地まで自動車でも 20～30 分程の距離にもかかわらず、地区を離れる若年者が増えています。

### 生活・交通基盤の整備状況

#### (道路)

南は国道 19 号(旧大町街道)、北は国道 406 号(旧鬼無里街道)がそれぞれ犀川、裾花川に沿って走っており、地区の中央部で交差するように県道小川長野線、県道入山小市線が東西・南北に通じています。いずれも急峻な地形を縫うような路線であり、幅員が狭い場所や落石などの危険箇所も多くあります。

#### (公共交通等)

鬼無里地区に向かう民間の路線バスが国道 406 号を運行しているほか、国道 406 号から隣接の七二会地区へ至る路線バスが 1 路線運行していますが、この路線は市の支援により運行が継続されています。また、住民自治協議会が主体となってデマンド方式による乗合タクシー「かつら号」を週 3 日運行しています。

その他、住民自治協議会が運営する福祉自動車もあり、要介護者や障害者などの重要な交通手段として利用されていますが、車両が一台しかなく、運転ボランティアの確保が難しいため、利用者の希望には応じられない状況です。

#### (防災・生活安全)

急峻な地形のため「地すべり防止区域」が多く点在していますが、国、県による対策により安全が確保されています。

消防団は過疎化等により団員の確保が難しくなっていますが、地区で組織されている自主防災組織により、体制の強化を図っています。

#### (買い物)

地区内にはスーパー等の商業施設がないため、買い物はもっぱら中心市街地の店舗を利用するか、自動車のない人は移動販売車を利用しています。

また、住民自治協議会が主体となって、一人で買物ができない高齢者世帯・一人暮らしのお年寄りに対して買い物の支援をする事業を立ち上げるなどの取組をしています。

#### (上下水道)

上水道については、概ね市営水道が整備されています。下水道については、一部の地域では公共下水道が整備され、その他の地域は合併浄化槽による水洗化を図っています。

#### (保健・福祉)

地域に医療機関は無く、通院患者は市街地の病院等を利用しています。

#### (教育・文化)

小学校、中学校が相次いで閉校となったことから、地域の教育のより所を失ったダメージには計り知れないものがあります。

閉校となった校舎を活用して、「歴史民俗資料展示室」を運営し、地域文化紹介の窓口としています。

公民館事業は、成人講座、地域探訪教室などが継続的に開催されています。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

### 芋井地区

平成 29 年 1 月 1 日現在

人 口	2,267 人 (男 1,103 人 女 1,164 人)
世帯数	974 世帯
面積	32.62 km <sup>2</sup>
65 歳以上人口	885 人
高齢化率	39.0%



### 地域の皆さんが思い描く将来像や方向性

芋井地域は、歴史文化や飯綱高原に代表される自然・観光資源に恵まれ、また棚田やりんごを中心とした果樹畑など里山の風情とそこに暮らす人々の温かさが感じられる農山村の文化が色濃く残る地域です。

これらの地域資源を住民が連携、協力し、訪問者や移住者を受け入れる活動を行うとともに、地域住民がゆとりある生活を営み、芋井に住んで良かったと実感できる地域を目指します。

### 地勢及び歴史

芋井地区は、市中心部から北西に位置し、南端の裾を縫う裾花川から飯縄山山頂までの急勾配地一帯に広がる地域で、居住地は、飯縄山麓の平地部に形成された高原地帯と山麓の南斜面から裾花川に及ぶ中山間地に二分されます。

霊山・飯縄山は古くから修験道の場として信仰され、頂上には飯縄神社の奥宮、荒安地区には里宮があり、全国の飯縄神社の本宮となっています。また、地区には石造物が約 1,400 基余りと多数あり、市内でも屈指の数を有しています。また、重要文化財の葛山落合神社や国の天然記念物で推定樹齢約 1,200 年とされる神代桜があります。

地区の歴史を概観すると、飯綱高原に旧石器時代の上ケ屋遺跡が存在し、平安時代に広瀬荘園が文献に記録され、中世には落合氏を中心とした「葛山衆」と称する一族が芋井七郷を治めていたとされます。江戸時代に入り棚田が盛んに開墾され、現在の農業基盤が形成されています。また、大正時代に飯綱高原の開拓が始まり、昭和 30 年代後半から別荘地の開発など、観光地として開発整備が進められてきました。

明治 22 年に富田村、鑪村、桜村、泉平村、入山村、広瀬村及び上ケ屋村の 7 村が合併して芋井村となり、その後、昭和 29 年に長野市と合併して現在に至っています。

### 産業構造及び地域の特性等

農業と観光が主力産業です。



## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

### (農業)

農業は、米、りんご及びキャベツ・大根などの野菜類の栽培が盛んです。

農家経営は、第二種兼業農家が主体で、農業就業者の減少と高齢化、野生鳥獣被害による耕作意欲の減退から農地の荒廃化、さらには耕作放棄地の増加が課題となっています。

農産物の地産地消により農業所得の向上を図るため、農産物直売所組合が組織され、バードラインに農産物直売所を設置しています。

### (林業)

近年は、森林の間伐事業が徐々に進められていますが、全体的には林産物の低価格や高齢化により手入れが進まない状況が続いています。こうした状況から、維持管理が不十分なため土砂災害のおそれもあり、更なる間伐等の森林整備が必要です。

### (観光、文化財等の地域資源)

市街地に隣接する身近な高原として親しまれている飯綱高原には、大座法師池や大谷地湿原等の豊かな自然及びゴルフ場、スキー場等の観光施設があり、多くの観光客が訪れていますが、来訪者は横ばい状態が続いています。

このため、スキー場の活性化や、春から秋にかけてのグリーンシーズンへの誘客を含め、年間を通じた新たな観光戦略が必要となっています。

地区内には多くの建造物や史跡等が存在し、それらの文化文明及び歴史を調査研究する団体が設立され活動が行われています。

### (その他の地域特性等)

近年は、都市と農村との交流を図るため、都会の中学校の修学旅行を受け入れる農村民泊受入れの会や農業体験を推進する会が活動し、地域の活性化を目指した取組が行われています。しかし、農村民泊受入れ会員の高齢化が進み、受入れ家庭が減少しています。

## 集落の状況

人口は、平成 29 年 1 月 1 日現在 2,267 人で、過疎化、少子・高齢化の進行により最も多かった昭和 25 年の人口 4,215 人の 53.8%に減少しています。なお、高齢化は進行していますが、飯綱高原地域への居住者の増加により、他の中山間地と比較すると人口の減少と高齢化の進行が抑えられています。

集落は、飯縄山麓の平地部に形成された高原地帯と山麓南斜面から裾花川に及び中山間地の標高 400~1,000mの地域に点在し、15 行政連絡区の自治会を構成していますが、自治会組織が発足していない集落が 2 集落あります。

最小 5 世帯から最大 80 世帯程度の小規模な世帯でコミュニティが形成されていますが、地域全体で少子・高齢化が進んでいます。このため、生活道路の草刈等の共同作業への参加などが困難な世帯が年々増加しています。

平成 24 年 3 月末をもって芋井中学校が閉校となり、また、児童数の減少から芋井小学校も存続が危ぶまれています。さらに、集落の存続が危ぶまれている地域もあり、自治会の再編の検討や、コミュニティ活動の一層の促進が求められています。

### 生活・交通基盤の整備状況

#### (道路)

国道 406 号が地区の南端、裾花川に沿って走り（裾花トンネルは地区内を走る）、中部を県道長野戸隠線、北部を県道戸隠高原浅川線と市道芋井 105 号線（通称バードライン）が横断し、地区の西部に県道入山小市線、西部から北部に県道栃原北郷信濃線、中部から北部に県道飯綱高原芋井線が縦断していますが、急勾配、急カーブで狭い道路が多く、県道でも大型観光バスが通過できない路線があります。

#### (公共交通等)

戸隠地区へ向かう民間路線バスが 2 路線、鬼無里地区へ向かう路線バスが 1 路線運行しています。また、地区住民自治協議会が運行主体となり、タクシー事業者に運行を委託したデマンド方式による乗合タクシー「すざくら号」を週 3 日運行しています。

また、市社会福祉協議会及び芋井地区住民自治協議会が運営する福祉自動車「芋井のぞみ号」を運行しています。

#### (防災・生活安全)

災害時の情報伝達手段として、防災無線の屋外子局が地区内に 7 箇所設置されていますが、聞き取れない地区が多いことから増設や他の情報伝達手段が必要です。

消防団は過疎化、少子・高齢化により団員の確保が難しいことから組織の見直しが必要となっています。集落ごとに自主防災会が結成され防災活動に取り組んでいます。

#### (上下水道)

上水道については、概ね市営水道が整備されています。

下水道については、当地区の大部分は、農業集落排水事業により整備され完了しています。飯綱高原地域は、公共下水道事業により整備が概ね完了しています。その他の地域は合併浄化槽による水洗化を図っています。

#### (保健・福祉)

高齢者世帯の日常生活を支援するためのボランティア組織「芽吹きの家」が発足し、草刈り作業等の活動をしています。

高齢者が一同に集まり、交流や健康増進のための施設整備が必要です。

#### (買い物)

地区内では、商店が 4 店舗営業していますが、ほとんどの地域住民は中心市街地で買い物をしています。買い物に不便をきたしている高齢者世帯等に対しては、宅配サービスの利用や親族、近隣者等の互助による支援を行っています。

また、民間事業者による移動販売車が、定期的に地区内を巡回しています。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

### 篠ノ井地区(信里)

平成 29 年 1 月 1 日現在

人 口	1,245 人 (男 596 人 女 649 人)
世帯数	504 世帯
面積	13.42 km <sup>2</sup>
65 歳以上人口	550 人
高齢化率	44.2%



### 地域の皆さんが思い描く将来像や方向性

人と人とのつながりを大事にして、たんぼぼ、未来塾、農楽耕、ポン助育成会等の地域活性化を推進する実践団体の活動を皆で支え、維持発展させていきます。また、都市近郊の中山間地である信里の自然環境や人の温かさを生かした、修学旅行中学生を中心とした体験型民泊事業を推進し、広くグリーンツーリズムに発展させていきます。

以上を踏まえ、信里地域委員会が中心となり、豊かな自然の中で語り合い元気の出る安泰の郷、信里を目指します。

### 地勢及び歴史

信里地域は、篠ノ井地区の西部の山地に位置し、標高 730m の茶臼山の稜線を挟んで北西斜面の篠ノ井山布施と南西斜面の篠ノ井有旅からなっています。信里地域の中心地である青池集落は篠ノ井市街地と約 300m の標高差があり、眺望の優れた場所となっています。

古くは、松代藩領で、近世の初めは山布施村と有旅村の二か村がありましたが、幕末には山布施村・山村山村・青池村・有旅村・入有旅村・中山新田村の六か村からなっていました。明治 5 年に有旅村・入有旅村・中山新田村が合併して有旅村となり、翌 6 年には山布施村・山村山村・青池村が合併して山布施村となりました。

地域の名称「信里」は、明治 22 年、山布施村と有旅村が合併して付けられたものです。その後、環境条件・地勢等を勘案し、分村して七二会村等との合併、篠ノ井町との合併といった協議もなされましたが、昭和 30 年に全村一致で篠ノ井町と合併をし、その後、昭和 41 年に篠ノ井市が長野市と合併して現在に至っています。

### 産業構造及び地域の特性等

#### (農業)

肥沃な土壌に恵まれ、雨水や沢水を利用したため池が整備され、中山間地域としては水田が多く、畑作は、主に戦後盛んになったりんご栽培のほか、アスパラガス・加工用トマトなども栽培されています。

農業経営は、第二種兼業農家が多く、農業従事者の高齢化が進展しており、また近年は、野生鳥獣による農業被害が多発し、深刻な状況となっています。

平成 4 年に設立された地域の女性グループ「たんぼぼ」は、地域内で採れた野菜等の販

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

売や農産物加工品の直売を行っています。平成 11 年には「有限会社たんぽぽ」として法人化し、平成 22 年には、長野市農業公社の「農業法人化支援事業」の第 1 号として 250 万円の出資を受け、更なる経営の安定化を目指しています。

また、都市部の小中学校児童・生徒を対象に農業体験民泊を実施しています。

他にも、りんご・棚田のオーナー、ソバづくり委員会、酒・ワインづくり等の団体が地域の活性化を図るための活動を行っています。

(林業)

高齢化が山の荒廃、農地の野生鳥獣被害へと拍車をかけています。そこで、里山集約化事業を活用して里山整備に取り組むとともに間伐材の有効利用に努めています。

### 集落の状況

最小 13 世帯から最大 68 世帯で構成された集落が 15 か所に点在する農村地帯であり、昭和 20 年代は人口が 3,000 人を超えた時期もありましたが、近年では少子・高齢化が進み、人口が 1,250 人不足となっています。

他の地区と同様、地域の役員のなり手がいない、農地の荒廃が進む等の課題が生じており、ひいては、地域内の生活道路の草刈、除雪などの共同作業が困難となり、集落の維持に支障が出始めています。

### 生活・交通基盤の整備状況

(道路)

地域の中心を走る主要地方道戸隠篠ノ井線は、地域の重要な幹線道路であり、南は篠ノ井市街地に通じ、北は村山で国道 19 号と交わり、犀川に架かる明治橋で七国会地区と結び、有旅からの県道安庭篠ノ井線は、信更町安庭で国道 19 号と交わっています。

両路線ともカーブが多く、道路改良も進んでいますが、一部狭い部分も残っています。

(公共交通等)

平成 22 年 6 月から、朝夕は信里小学校、篠ノ井西中学校に通う児童・生徒の通学手段としてのスクールバスに一般乗客が有償で乗車する「混乗方式」を採用した「信里地域バス」を運行し、日中は地元の運行委員会が主体となってデマンド方式による乗合タクシー「のぶさと号」の運行をしています。それに伴い、市の支援により運行を継続してきた民間バス会社の路線バスが平成 22 年 5 月末に廃止となりました。

当地区の乗合タクシーは、地域全体で運行を支援するために、全戸が一律の負担を負う市内で最初の例となりました。

その他、篠ノ井地区住民自治協議会が運営する福祉自動車もあり、要介護者や障害者などの重要な交通手段として利用されています。

(上下水道)

上水道については、県営水道が整備されています。

下水道については、一部の地域で農業集落排水が整備され、その他の地域は合併浄化槽による水洗化を図っています。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

### （買い物）

地域内には大きなスーパー等の商業施設が無いため、買い物の場所は、篠ノ井市街地及び周辺地区となることが多くなっています。

### （保健・福祉）

地域内には診療施設として、長野市国民健康保険信里診療所があります。内科・小児科については週2日、歯科については週1日診療を行っています。また、厚生連篠ノ井病院も比較的近距離にあります。

地域の高齢者については、自主防災会、民生委員等が可能な限り見守りを行っています。子育て世代については、送迎の便利な篠ノ井等市街地への転居が目立っています。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

### 松代地区(豊栄・西条)

平成 29 年 1 月 1 日現在

人 口	3,338 人 (男 1,695 人 女 1,643 人)
世帯数	1,354 世帯
面積	34.05km <sup>2</sup>
65 歳以上人口	1,076 人
高齢化率	32.2%



### 地域の皆さんが思い描く将来像や方向性

古代から人が居住し、伝統文化や森林等の資源を育み継承してきた豊栄・西条の両地域は、コンパクトな集落がまとまり、連帯意識も強固な地域です。

野生鳥獣対策として全町で取り組む防護柵の設置・維持管理や、生産組合方式による農作物栽培及び販売ルート確立などにより、荒廃農地の拡大抑止に努めるとともに、長野インターチェンジから程近い利便性や歴史遺産などの地域資源を活かし、地域活性化を図ります。

### 地勢及び歴史

豊栄地域(旧豊栄村)は、松代町中心街から南東に向かって標高 380m から 550m の地域に広がり、7 区によって形成されています。

南東の保基谷岳(1,529.1m)を最高峰に西北に至る奇妙山山系、西南の地蔵峠より千曲市森に至る鏡台山山系、さらに、地蔵峠より西条との境を西に走る英多山系の三つの山系に囲まれています。また、西に皆神山があり、三山系を源として南に関屋川(蛭川)、北に藤沢川の二つの川が合流して千曲川に注ぎ、いずれも一級河川に指定されています。

古代から人が住み、多くの遺跡(地蔵峠、皆神山、般若寺、桑根井原、宮崎)と古墳群(宮崎、丸塚、桑根井、鎧塚、牧内、川西)が、また皆神山頂においては中世に修験をおこした熊野出速雄神社本殿(県指定文化財)があります。

江戸時代には関屋に番所が設けられ交通の要衝として栄え、地蔵峠を経て真田に通ずる道は北国街道の脇道として重要な役目を果たしました。

明治に入り豊栄地域にも製糸工場が造られ養蚕業が発展したことから、開墾により桑の木が多く植えられ隆盛しました。

旧豊栄村は、昭和 30 年に松代町と合併し、その後、松代町は昭和 41 年に長野市と合併して現在に至っています。

西条地域(旧西条村)は、松代町中心街から南に向かって標高 370m から稲葉地区 750m の地域に広がり、7 区によって形成されています。

南側の高遠山(1,221m)を最高峰に東側にノロシ山(843.9m)、舞鶴山(559.6m)、西側に弘法山(977.5m)、象山(475.8m)の山裾に囲まれた山間地で、南及び西は上田市、千曲市と境をなしており、集落には高遠山を源とする急峻な一級河川の「神田川」が

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

流れ千曲川に注いでいます。

周辺の山々には、旧西条村と松代町との合併により設置された西条財産区のスギ、ヒノキ、カラマツ林が広がっています。

古代から人が住み、古墳や城跡が発見され、稲葉地籍からは、縄文時代からの土器や平安時代の住居跡などが出土しています。また、清水寺には木造千手観音立像（国重要文化財）ほか、平安時代の貴重な仏像が残されています。

明治7年、廃藩に伴い土族同志により製糸工場六工社が創設されるとともに、養蚕・製糸が盛んになり「製糸の町松代」として繁栄と活気をもたらされました。

旧西条村は、昭和31年に松代町と合併し、その後、松代町は昭和41年に長野市と合併して現在に至っています。

### 産業構造及び地域の特性等

両地域ともに、産業は農業が中心で、かつて盛んであった林業は停滞し、現在は財産区により森林整備が行われています。

#### （農業）

農家経営は、第二種兼業農家が多く、農業従事者の減少と高齢化が進行しています。

ここ数年は野生鳥獣による農作物への被害が急激に増加しています。

また、高齢化に加え販売できる新たな作物が定着しないことや、販売ルートが確立していないため、広大な農地を所有していても、少量の自家用作物のみしか栽培していない家庭が多くなっており、農地の荒廃化が課題となっています。

地産地消を進めるため、松代地区内の農産物の流通ルートの開発、維持などのシステムの構築や、農地を集团的に活用した地産地消の食堂又は商品（食料品）の開発を検討する必要があります。

#### （林業）

材木の流通ルートの確保と低価格の解決が課題となっています。

#### （観光、文化財等の地域資源）

##### 【豊栄地域】

皆神山の皆神山登山口付近には、第二次世界大戦当時に松代町内で3箇所築造された地下壕のうちの一つがありますが、現在は危険なため入口は閉鎖されており、史跡の存在も周知されていません。

また、山頂付近には「熊野出速雄神社本殿」（県指定文化財）が、境内地には「皆神山のクロサンショウウオ産卵池」（市指定文化財）があります。

そのほか、蛙合戦で知られる明徳寺には、第二次世界大戦において硫黄島で玉砕した栗林大将の墓と、海津城の初代城主高坂弾正の墓があります。

##### 【西条地域】

第二次世界大戦最後の拠点として計画された大本営跡の地下壕跡が2ヶ所あります。

舞鶴山地下壕は、気象庁松代地震観測所として使用され、もうひとつの象山地下壕は、平和を後生に語り継ぐ戦争遺跡として整備、公開され、多くの見学者が訪れています。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

また、西楽寺の真田信重霊屋は国重要文化財に指定されており、真田氏の氏神である白鳥神社（市指定文化財）やその別当寺である開善寺（経蔵：県指定文化財）、第三代藩主真田幸道を開基とする恵明寺など、真田氏にまつわる社寺が多く存在します。

### 集落の状況

両地域ともに、60～70 戸の集落（区）が山沿いにつながっており、いずれの集落も人口減少と少子・高齢化が進行しています。そのため、集落単位で草刈・除雪等の共同作業が行われていますが、参加できない世帯や、買い物が困難な世帯が増加しています。

また、地域への来訪者が少なく、都市部との交流による活性化が不足しています。

### 生活・交通基盤の整備状況

#### （公共交通等）

豊栄地域には、主要地方道長野真田線が集落の中央部を走っています。松代地区中心部と結ぶ民間路線バスが 1 路線運行していますが、この路線は市の支援により運行が継続されています。

西条地域には、県道六鹿・松代停車場線が集落の中央部を走っています。民間タクシー会社の路線バスは存在しませんが、定時・定路で運行する空白型乗合タクシーを週 3 日運行しています。その他、松代地区全域をカバーし、地区社会福祉協議会が運営する福祉自動車もあり、要介護者や障害者などの重要な交通手段として利用されています。

#### （防災・生活安全）

野生鳥獣被害による農作物被害が著しく、平成 23・24 年度に国庫補助事業で防護柵整備を行いました。完全に被害を防止することは困難な状況です。一部未整備の地域もあることから、防護柵の設置が急務となっています。加えて、野生鳥獣（クマ・サル・イノシシ・シカ等）の危険により、小学生等の通学時の安全確保が必要となっています。

消防団の高齢化等により、団員確保が困難になってきていることから、消防団の体制強化を図る必要があります。

#### （上下水道）

上水道については、概ね市営水道が整備されています。

下水道については、両地域とも未整備地区があり、下水道及び合併浄化槽の整備が進められています。

#### （保健・福祉）

高齢化が進んでいますが、高齢者福祉施設が地区内にないため、小規模多機能型施設等の介護保険施設が必要とされています。



## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

### 若穂地区(保科)

平成 29 年 1 月 1 日現在

人 口	3,141 人 (男 1,555 人 女 1,586 人)
世帯数	1,179 世帯
面積	33.79km <sup>2</sup>
65 歳以上人口	1,084 人
高齢化率	34.5%



赤野田のつつじ

### 地域の皆さんが思い描く将来像や方向性

荒廃農地の再生と緩衝帯整備により、野生鳥獣による被害を防ぎ、保科にある食肉加工施設を活用した事業を展開し、ジビエ振興による地域資源を利用した地域おこしを目指しています。

地域住民の生活を守り、安心して住みやすい地域を目指し、若穂実行委員会を設立して、取り組んでいきます。

また、災害を未然に防止し安全な居住地区の為に、支障木伐採対策の活動も推し進めています。

### 地勢及び歴史

保科地域(旧保科村)は、市中心部より東南の市域最東端に位置しており、周囲を奇妙山(1,099m)、堀切山(1,157.4m)、保基谷岳(1,529.1m)、熊窪山(1,253.7m)、太郎山(996.9m)などの山々に囲まれ、ここに端を発する保科川、赤野田川の扇状地の緩傾斜地に集落を形成しています。

周囲 26.3 km、総面積 33.79km<sup>2</sup>で、そのうち林野が約 30km<sup>2</sup>と約 90%を占め、そのほとんどが国有林であり、耕地はわずか約 3.4km<sup>2</sup>となっています。

保科地域では、財産区として約 1km<sup>2</sup>の林野と温泉施設「永保荘」を所有していましたが、平成 22 年 12 月末をもって解散し、すべてを長野市へ無償譲渡しています。

この地域に古代から人々が居住していたことは、山麓などにある古墳や発掘された出土品によって確認されています。

「保科」の名は郷名として古代の史料に見られ、その呼称は現代まで続いています。また、この保科郷は、この地に威を張った中世の豪族保科氏の発祥の地と言われています。

明治以降は、村々が合併をしながら自治体としての形態を整えてきました。

昭和 34 年 4 月 1 日に綿内、川田、保科の 3 村が合併し、各村の頭文字を使って若穂(わかほ)町となり、その後、昭和 41 年に長野市と合併して現在に至っています。

### 産業構造及び地域の特性等

産業は林業から養蚕、そして果樹栽培に変わり、保科のりんごは市場でも高く評価された時代もありました。また、ぶどう栽培が盛んになり、現在の若穂団地の辺りから山際ま

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

でぶどう棚で埋まった時代もありましたが、近年ではりんごが主な作物となっています。

野生鳥獣対策は、当地域の長年の課題でしたが、食肉加工施設を平成 24 年度に建設し、現在関係機関と共にジビエ振興を推し進めており、これによる地域活性化を目指しています。

### (農業)

農業従事者の高齢化、農業後継者不足が顕著であり、さらに野性鳥獣による被害が深刻で、栽培をやめてしまう農家が増え、山際のぶどう畑は棚だけが残っている状況です。また、りんご畑には立ち枯れした樹が残ったまま荒廃農地化し、ここを棲家として野生鳥獣が増えるという悪循環となっています。

また、地元社会福祉法人では、若穂地区で採れた減農薬野菜を使った弁当の販売を行っています。

都市農村交流としては、一部グループが農業体験などの活動をしています。

### (林業)

保科地区の植林した人工林は、間伐されず密植状態となっています。また急傾斜地に多く存在し、防災面から保水力がないため、地すべり等の土砂災害が危惧されます。

### (観光、文化財等の地域資源)

「清水寺」は、善光寺や戸隠神社と並び「北信濃三大霊場」と称される歴史ある古寺で、ボタンと紅葉の見事さで有名です。住民自治協議会では、サクラ、アジサイ、ボタン、サルスベリなど、四季の花咲く里としての地域振興を、保科地域だけでなく、若穂地区全体の取組として考えています。

また、Uターン等で、製菓店や飲食店を開業した若者もあり、口コミで人気店となっています。

赤野田集落に古くから伝わる赤野田神社太神楽（市選択文化財）は、伊勢外宮神領の流れをくむもので、長野市内はもとより北信から東信の神楽の元祖と伝えられていますが、少子化と指導者の高齢化により後継者が育っていないのが現状です。今後、赤野田集落だけの問題ではなく、地域全体で太神楽の歴史が途絶えることのないよう後継者の育成に努めていく必要があります。

赤野田のつつじ山は、毎年役員を選出し、維持・管理にあたっています。また、保科のボタンについても各地区から 1 名を選出し、復活に努めています。

地域おこしを目指す団体「保科るねっさんす倶楽部」が、コンサートの開催・保科地区全体での夏祭り・桜のライトアップなどを行って地域活性化に尽力しています。

## 集落の状況

人口の減少が続いており、高齢化率は年々上がってきています。

集落は、緩傾斜地に比較的にかたまっており、4 つの行政連絡区と 13 の集落単位の区で構成されています。それぞれの集落が伝統と特色を活かしながら、保科地域全体としてのまとまりをもって住民活動を行っています。

耕作面積の少ない兼業農家が多い地域のため、後継者は市街地に住み、高齢者だけが残るといった状況になりつつあります。このため、「高岡の小豆焼き行事」や「高井穂神社の赤

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

熊(奴巻)」などの無形文化財や地域の祭りなどの維持が困難になっています。

河川の草刈などの共同作業については、高齢化の進行等により、参加する世帯が年々減少しています。高齢者独居や身体障害者などの避難行動要支援者は、283人（平成28年度資料から）に上り、当地域の人口（平成29年1月1日現在）3,141人の9.0%を占めています。

### 生活・交通基盤の整備状況

#### （道路）

市中心部と上田市菅平地区とを結ぶ主要地方道長野菅平線が地区の北西から南東を縦断していますが、地区の最上部に位置する持者地区から菅平までの間は、急勾配で狭いため、冬期間は車両通行止めとなっています。

また、家屋が連担している地区などでは、幅員が狭く見通しの良くない箇所があり、歩道も整備されていません。

#### （公共交通等）

市中心部と当地区とを結ぶ民間路線バスが1路線（大豆島保科温泉線）運行していますが、この路線は市が一部を支援することにより運行が継続されています。利用状況によっては廃線となるおそれもあり、住民自治協議会で、利用促進の手立てを創意工夫して、存続への努力を続けているところです。また、定時・定路で運行する空白型乗合タクシーを週3日運行しています。

その他、地区住民自治協議会社会福祉部会が運営する福祉自動車もあり、要介護者や障害者などの重要な交通手段として利用されています。

#### （防災・生活安全）

道路が狭いため、路上駐車車両により道路がふさがれ、災害活動ができないことが危惧されます。

平地が少ない地域であるため、消防水利(防火水槽)が少なく、自然水利として通年水量が確保できる用水の整備が必要です。

#### （上下水道）

上水道については、概ね市営水道が整備されています。

下水道については、大半の地域で公共下水道が整備され、その他の地域は合併浄化槽による水洗化を図っています。

#### （買い物）

地区内には個人の商店はありますが、大きなスーパー等の商業施設がないため、日常の買い物は市街地や須坂、松代など近隣地域に依存することが多くなっています。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

### 七二会地区

平成 29 年 1 月 1 日現在

人 口	1,617 人 (男 756 人 女 861 人)
世帯数	759 世帯
面積	16.40km <sup>2</sup>
65 歳以上人口	768 人
高齢化率	47.5%



### 地域の皆さんが思い描く将来像や方向性

当地区は中心市街地から 10~15km と至近の距離にあり、家の周りの畑や水田を耕すことにより、安全で新鮮な農作物が欲しい時にいつでも手に入るスローライフを満喫できます。

安全安心の地域づくりのために、住民自治協議会組織を中心に、交通弱者の交通手段の確保等の諸課題に取り組んでいます。

今後も美しい自然や受け継がれてきた伝統・文化のもとで、住民が認め合い、支え合いながら生活できる七二会を目指します。

### 地勢及び歴史

七二会地区は、市中心部より西部に位置し、標高 1,257.5m の陣場平山から犀川左岸まで、標高差約 830m の南傾斜地に広がり、東西 4.7km、南北 3.3km、面積 16.4 km<sup>2</sup> を有しています。

いわゆる西山地域と呼ばれ、急峻な地形と軟弱な地質から、土砂災害の危険性が高い地域です。

戸隠地区との境にある地蔵峠には表山中と裏山中を結ぶ道である松代往来道（戸隠道）が通り、笹平には舟渡しがあって松代へ通じていました。地蔵峠には「信濃三十三番札所 観音」の石仏が残っています。

地区内にある寺の中で、集落の名称となっている大安寺は雷峰妙霖が開いた臨済宗の寺で（現在、曹洞宗に改宗）、近世には朱印領 20 石を与えられており、開山塔など古い石塔が残っています。また、瀬脇地区の忠恩寺にある「木造聖観音立像」は国の重要文化財に指定されています。

明治 9 年 5 月に瀬脇村、五十平村、倉並村、橋詰村、笹平村、大安寺村、岩草村、坪根村、古間村の 9 村が合併して七二会村となり、その後、昭和 41 年に長野市に合併して現在に至っています。

### 産業構造及び地域の特性等

農業が主要な産業ですが、傾斜地が多く、稲作の適地が限られることから、明治期は麻の栽培、昭和 40 年代初めまでは養蚕が主要産業でした。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

### (農業)

中山間地域で一般的に栽培されているりんごの栽培面積は少なく、豆、麦や野菜を中心とする小規模兼業農家が大半を占めています。また、地元で生産される野菜を使用する「おやき」の製造販売が好評を得ています。

### (林業)

地区内の森林面積が少ないため、産業として成り立つのは困難ですが、地域の有志により「七二会森林整備クラブ」を設立して里山の整備に取り組んでいます。

### (観光、文化財等の地域資源)

地区内には、神秘の蝶「アサギマダラ」が飛来する塩地籍、「ヒメボタル」の生息地がある陣場平、また、銘木百選に選ばれた坪根赤岩地籍の「トチノキ」、岩草地籍の「イチイ」等の巨木が存在する他、北アルプスや菅平方面を望む絶景ポイントが数多くあることから、時節に合わせ多くの方が撮影に訪れています。

### (地域の特性等)

地元には十分な就労場所がなく、若年層の多くは仕事の関係で市街地へ転居するため、過疎化の一因となっています。

## 集落の状況

標高 420～930mの傾斜地に 10 行政連絡区、39 の集落が点在しており、最小 2 世帯の集落から最大でも 90 世帯と、小規模な集落が大半を占め、地域全体で少子・高齢化が進行しており、高齢化率(65 歳以上)は 47.5%と高く、道路の草刈り等集落における共同作業に支障をきたしている状況です。冬季には雪かき援助の要望が多くあります。

昭和 41 年の合併時に 3,860 人であった人口が、現在は 1,700 人を切っています。

## 生活・交通基盤の整備状況

### (道路)

幹線道路は、地区南側の犀川沿いに国道 19 号が通り、地区内を南北に主要地方道戸隠篠ノ井線、東西に県道小川長野線が走っています。

市道を含め、集落間を結ぶ道路は、比較的整備が進んでいますが、地形が急峻で地質が脆弱なため、改良整備に時間を要していることから、未だに狭い箇所が残っています。

### (公共交通等)

信州新町地区や中条地区に向かう民間路線バスが国道 19 号を運行しているほか、地区内を終点とする路線バスが国道 19 号及び県道 401 号から山間部に 1 路線、市の廃止代替バスとして乗合タクシー「市場線」が週 6 日運行されていましたが、利用者が限られていることから、平成 29 年 4 月から「市場線」とデマンド方式による乗り合いタクシー「じんば号」を統合した、新たな生活支援交通の試験運行を開始しました。

その他、社会福祉協議会を運営主体とする福祉自動車もあり、要介護者や障害者等が地

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

区外の医療機関へ通院する際に、重要な交通手段として利用されています。

### （買い物）

生活必需品を扱う商店が少ないため、買物先は中心市街地及び周辺地区となることが多くなっています。また、出歩くことが困難な世帯の約8割は民間の移動販売車に頼らざるを得ない状況です。

### （上下水道）

上水道については、概ね市営水道が整備されています。

下水道については、地域の約8割は平成14年に竣工した農業集落排水事業によって整備が完了しています。その他の地域については、合併浄化槽によって水洗化を図っていません。

### （情報通信）

情報通信関係においては、大半の地域でケーブルテレビの環境は未整備ですが、高速インターネット環境は民間サービスにより整備されています。

### （防災・生活安全）

地区の大半が土砂災害危険区域に指定されています。地すべり対策工事が進み、大きな土砂災害は発生していませんが、今後も土砂災害には警戒が必要です。

人口の流出により空き家が増加しており、放火や犯罪などの発生が危惧されます。

また、消防団については昼間、災害活動に出動できる団員が不足しています。

### （教育・文化）

七二会小・中学校の児童生徒数は、合わせても100人に満たず、教育効果に不安を感じる保護者も多く、地区外通学を選ぶ生徒もあり、小中学校の存続自体が危ぶまれています。

公民館は、講習会や文化芸能祭などの文化活動の拠点として機能していますが、高齢化や地形的条件で講座を企画しても人が集まりにくくなっています。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

### 信更地区

平成 29 年 1 月 1 日現在

人口	2,101 人 (男 1,043 人 女 1,058 人)
世帯数	928 世帯
面積	35.84 km <sup>2</sup>
65 歳以上人口	1,053 人
高齢化率	50.1%



### 地域の皆さんが思い描く将来像や方向性

中山間地である信更の資源といえば農業ですが、地形的に農地の集約は難しく大規模化はハードルが高いものがあります。

そこで兼業農家として中小農地を活かした給料+ $\alpha$ 、休日の農作業で+ $\alpha$ が最大化するような作物、加工品を諸機関とともに研究開発することにより地域を離れた者が帰って来ることが期待できます。そこで、人口の増加や遊休農地の解消を通して、地域が再び活力を取り戻すことを目指します。

### 地勢及び歴史

信更地区は、長野市の南西部に位置し、犀川と千曲市に挟まれ、信更地区の中央を走る丘陵を境にして、降る雨も信田地区側は千曲川に、更府地区側は犀川に注ぐ地形であり、聖川が開析した川底平野を利用した水田が開けています。

昭和 48 年の水田のほ場整備事業の際には縄文土器や鹿の骨などが発掘（大清水遺跡）され、約 3,000 年前の古代から人々が生活していたことを物語り、また、信更地区各地からは更に古い時代の石斧や尖頭器（上和沢遺跡）などの石器類や須恵器の窯跡（松ノ山窯跡）などが見つかっています。県歌「信濃の国」にも登場する犀川に架かる久米路橋は、最古の史料としては慶長 16 年（1611 年）に初めて、その名称が登場しますが、現在までに何度も架け替えられ、昭和 8 年に鉄筋コンクリートの永久橋が架けられました。また、大塚古墳（市指定文化財）を含め、信田地区には数箇所の古墳が残されています。

弘化 4 年（1847 年）の善光寺地震で甚大な被害を受けた歴史が今に語り継がれ、安全安心な地域づくりが地域の共通課題となっています。

昭和 31 年に信田村と更府村が合併して信更村となり、その後、昭和 41 年に長野市と合併して現在に至っています。

人口の減少に加え、少子・高齢化の進行により、平成 23 年度には、地区内の 2 園の保育園が統合し、平成 28 年度には、信田小学校と更府小学校が統合され信更小学校となりました。

### 産業構造及び地域の特性等

#### (農業)

農業が主要な産業で、信田地区では稲作とりんごを中心とした果樹栽培、更府地区はかつては養蚕が盛んでしたが、現在は稲作が中心となっています。

りんごは「やまのぶ」ブランドとして、関東・中京・関西を中心に出荷されています。田野口区の種蒔ほ場は 65ha と県下最大規模を誇っています。特産としては、灰原区の辛味大根やソバが有名です。

農業従事者の高齢化、農業後継者不足が顕著であり、さらに、野生鳥獣による被害は深刻な状況となっています。

平成 26 年からワイン用ぶどうの栽培を開始し、高野地区 1.4ha、上尾地区 0.2ha、宮平地区 0.8ha にぶどうの苗を定植しました。

#### (林業)

材木に適した森林は小規模で、採算が合わない状況にあります。

森林整備(間伐、植林、枝打ち、草刈り等)が不十分であり、高齢化も重なり森林の維持管理が困難になっています。

#### (観光、文化財等の地域資源)

三水地区の長勝寺の入り口の仁王門に安置されている「木造金剛力士立像」は鎌倉期の作で、「三水の仁王さん」と呼ばれて親しまれており、県宝に指定されています。また、下平地区の観音寺にある「木造十一面観音立像」は、県内最古の木造彫刻である松代清水寺の仏像に次ぐ古像で、国の重要文化財に指定されています。

#### (その他の地域特性等)

地域の有志による花づくり公園やマレットゴルフ場の整備など、住民によるまちづくり活動が活発に行われています。

また、平成 23 年度に設立した「信更ふるさと民泊受入れの会」により農家民泊を実施し、都会から多くの中学生を受け入れ、地域の活性化を図っていますが、平成 24 年をピークに受入れ農家数が減少し継続が難しくなっています。

おやきの店「信更いっぽ」が、地域の農家女性等の雇用に貢献しています。

地域の活性化を図るため、地場産品を扱う「農家直販」が、定期的にトイゴや長野駅東口で地元の農産物の販売を行っています。

各区に地域公民館があり、独自の行事を行っています。信更全体の公民館行事では、世帯数の少ない地区では人数不足で開催できない場合があります。

平成 26 年に「田舎暮らしを支援する委員会」を設立し、田舎暮らし見学会や移住者と町民の交流会を開催し、平成 27 年から「田舎暮らし案内人の会」を発足して、空き家バンクへの登録案内や空き家物件の案内、田舎暮らしガイドの発行、移住フェアの参加等により、移住者の増加に努めています。

### 集落の状況

標高 400~850mの地域に、1 行政区当たり 12~150 世帯の範囲で、行政連絡区 14



## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

区を構成しています。また、各区は地形に伴って更に数戸単位の集落から形成されています。

各地区で道路、山林の手入れ等を区民全員で行っています。また、地区によっては不参加者に対する出不足金の徴収制度があります。しかしながら、高齢化率も 50.1%となり、生活道路の草刈り等への共同作業に参加することができない世帯、また、一人で買い物ができない世帯も増えています。

地域活性化のため、平成 16 年から「信更夏まつり」を実施しています。また、地区毎でも地元神社のお祭りが行われています。さらに、お寺や講に関わる行事が行われている地区もあります。吉原地区では七年に一度、御柱祭が行われていますが、人口減少や高齢化の進行により祭の存続が難しくなっています。

### 生活・交通基盤の整備状況

#### (道路)

国道 19 号が地域北側の犀川沿いを通っており、篠ノ井方面からは、主要地方道長野信州新線や県道川口田野口篠ノ井線が通っています。しかしながら、幅員が狭くカーブが多いことから、道路改良の必要な箇所が多く残っています。

#### (公共交通等)

信州新町地区と篠ノ井地区を結ぶ民間路線バス 1 路線と、大岡地区と篠ノ井地区を結ぶ市バスが地区内を運行していますが、民間の路線は市の支援により運行が継続されています。また、地区住民自治協議会が主体となってデマンド方式による乗合タクシー「すずらん号」をコースにより週 2 日～週 5 日運行しています。

その他、住民自治協議会が運営する福祉自動車もあり、要介護者や障害者などの重要な交通手段として利用されていますが、福祉自動車のニーズが高まるにつれ、地区内でのドライバーの確保が難しくなっています。

#### (買い物その他)

地区内で生鮮食料品を扱う店舗は、信田と更府にある農協売店のみのため、買い物のために篠ノ井、川中島、更北、信州新町方面に出向く必要があります。

このような状況の中、平成 24 年 7 月から一人で買い物ができない世帯等のために、民間の移動販売車の運行が、地区により週 1 回～週 3 回実施されています。

#### (保健・福祉)

地区内には診療施設として、長野市国民健康保険信更診療所があります。内科・小児科については週 3 日、歯科については週 2 日診療を行っています。受診日時が限られているため、多くの方は他地区の医療機関へ通院しています。

#### (情報通信)

信田地区では民間事業者によるケーブルテレビ（個人契約）が整備普及され、インターネット接続に支障はありません。一方、未整備の更府地区ではインターネットの環境整備を求める声が多くあります。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

(上下水道)

上水道については、概ね市営水道が整備されていますが、一部地域では県営水道が整備されています。

下水道については、農業集落排水事業により信田と更府地区の一部について整備が完了しています。残りの地区については合併浄化槽による水洗化を図っています。

(防犯・生活安全)

地域の安全確保のため、消防の信更分団が130人体制で活動しています。地区内在住者が少なくなってきており、団員確保が困難となっていることから、地区外に出ている出身者も分団に所属しています。

信更地区全体の防災訓練は毎年春季に実施しています。区単位では、基本的に各地区で区長を中心に自主防災会が結成されており、地区毎に訓練が行われています。

平成22年に発生した災害(道路の寸断、孤立)を教訓に、地元の防災体制や対応を再確認し、自主防災委員会に災害本部設置要綱を作成し、施行しています。

人家が少ないため、小中学校の児童生徒の登下校時の不審者による犯罪や、クマの被害防止対策が必要です。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

### 戸隠地区

平成 29 年 1 月 1 日現在

人 口	3,638 人 (男 1,778 人 女 1,860 人)
世帯数	1,510 世帯
面積	132.76 km <sup>2</sup>
65 歳以上人口	1,665 人
高齢化率	45.8%



### 地域の皆さんが思い描く将来像や方向性

戸隠地域の日本を代表する大自然と、神話や伝説にまつわる悠久の歴史に育まれた伝統と文化を、地域住民が協働して未来に継承することで、ふるさとを愛し誇れる地域づくりを目指します。

### 地勢及び歴史

戸隠地区は、市の北西部に位置し、周囲を日本百名山である高妻山をはじめ、戸隠連峰、飯縄山などの山に囲まれています。

地勢は複雑を極め、戸隠・飯縄山山麓に発達した南面傾斜の高原地帯と、虫倉山山麓の北面傾斜地に分けられ、林野面積は、地区総面積の 83.6% を占めています。

地区の一部は、妙高戸隠連山国立公園の指定を受け、豊かな自然を擁し、観光資源に恵まれ、四季を通じた観光地として全国の人々に親しまれています。

地区内では、貝の化石が多数発見されていることから、約 400 万年前には生命豊かな海が広がっていたことが推測されます。

また、古く平安時代から霊場として栄え、天の岩戸伝説による神々が祭神の戸隠神社を中心とした信仰の地でもあるほか、謡曲「紅葉狩」等で知られる鬼女紅葉の伝説など歴史と伝説に満ちています。

昭和 32 年には戸隠村と柵村が合併して戸隠村となり、平成 17 年 1 月、長野市に合併して現在に至っています。

### 産業構造及び地域の特性等

産業は、主にソバ、稲作、野菜などの農業と、観光地を中心とした旅館等の宿泊業、そば店や土産店などの飲食サービス業・小売業が主体となっています。

#### (農業)

最近では種苗、花きなどが増加傾向となっているほか、耕作者の高齢化や、葉たばこ生産の減少に伴い、農地の集約化によるソバの栽培が増加しており、今後は特産物を活かした農業と観光との連携を強化した取組が期待されます。

地区の北部は戸隠高原を中心とした高冷地の上、豪雪地帯で、比較的平坦な耕地の農家

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

で形成されている一方、地区の南部は、虫倉山山系や荒倉山山麓に広がる急傾斜地で小規模な耕地の農家で形成されています。このため、両地区は、地形、気候などの違いにより耕作スタイルが異なっているという特性があります。

こうした状況の中、農業従事者の高齢化、後継者不足が課題となっており、農地の荒廃地化や野生鳥獣被害が深刻化していることから、その対策が急務となっています。

### (林業)

林業は、木材価格の低迷により生計が成り立たず、従事者の高齢化・担い手不足により里山や植林地の手入れが遅れ、倒木による災害が多発しています。また、山林の荒廃化により野生鳥獣の棲家となっています。このため、里山を整備する施策が急務となっています。

### (観光、文化財等の地域資源)

観光については、妙高戸隠連山国立公園を有する豊かな自然と観光資源に恵まれ、四季を通じた観光地として有名です。北部地域は、戸隠神社や森林植物園、鏡池、キャンプ場、スキー場など戸隠高原一帯を中心とし、また、南部地域は、鬼女紅葉伝説・巖窟観音など栃原地区の史跡や自然を中心とした、のどかな山村の散策やトレッキングコースとしての活性化が期待できます。

また、中社区及び宝光社区の歴史的街なみは、平成 28 年度に文化庁の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受け、保存活動が始まるとともに、江戸時代から続くチシマザサ（通称根曲り竹）を原材料として製作する長野県指定の伝統的工芸品「戸隠竹細工」の伝承活動も始まり、歴史や文化を残す住民による活動が盛んに行われています。

このように多くの観光資源を備え、首都圏などからのアクセスの良さを活かすことで、特にパワースポットや癒しの里として全国の注目を集めており、年間 120 万人の観光客が訪れています。

また、パウダースノーを活かした戸隠スキー場やリニューアルした戸隠キャンプ場など、通年型リゾート地として更なる飛躍が期待されます。

一方で、宿泊業は小規模の院坊・民宿・ペンションが主体で、雇用も少ない状況です。観光事業に対して無関心な地域もあり、地域全体の意識向上や協力体制の構築が課題となっています。

さらに、学生の合宿、企業の研修などの誘致、自然を活用した催し、スポーツや学術等の全国大会などの誘致にも取り組む必要があります。

### 集落の状況

集落は、標高 580～1,300mの地域に 15 区、60 の集落が点在し、1 世帯の小集落から最大でも 154 世帯と小規模な世帯数のコミュニティを形成しています。

近年、人口の減少が進行して、特に若年層を中心とした人口の減少が目立ち、老年人口が大幅に増加しています。

そのため、ほとんどの集落で生活道路の草刈り等の共同作業への参加者が減少しており、作業規模の縮小や作業を中止する箇所が出てきています。

また、若年世帯の減少に伴い子ども数も減少し、祭事や地区の行事を近所の集落と共同で行う地区も増えています。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

一人で買い物ができない世帯も年々増加の傾向にありますが、近所の互助のほか、子どもや親戚の支援で生活しているのが現状です。

昼間人口が少ないため、防犯や防災面の対応に対する不安が高まっており、また、車の運転ができない世帯は、生活に不便をきたしています。

特別豪雪地帯に指定されており、生活道路の除雪は確保されていますが、老人世帯などでは屋根の雪下ろしや雪かきができないといった世帯が増えています。

### 生活・交通基盤の整備状況

#### (道路)

地区の南部を国道 406 号が横断し、北部には主要地方道長野戸隠線と県道戸隠高原浅川線（旧バードライン）が市中心部に通じ、また、主要地方道信濃信州新線が信濃町と鬼無里地区に通じ、南には主要地方道戸隠篠ノ井線が篠ノ井地区に通じていますが、いずれも急カーブで狭い箇所が多い路線となっています。

国道や県道の整備は、計画的に進められ、市街地との交通の便は良くなりつつありますが、未改良区間も残されており、引き続き改良整備を進めていく必要があります。冬季の除雪は行き届いています。

#### (公共交通等)

地区内を運行する市バスについては、予約運行による 1 路線を含む 3 路線を運行しています。また、市中心部につながる民間路線バス 3 路線が運行されていますが、3 路線とも、国や県、市の支援を受け運行しています。集落が散在している地域では、バス路線から離れた場所に住む人も多く、停留所が遠いという意見があります。

その他、住民自治協議会が運営する福祉自動車もあり、要介護者や障害者などの重要な交通手段として利用されています。

#### (保健・福祉)

医療機関については、個人診療所(内科)と長野市国民健康保険戸隠診療所(内科・小児科・歯科)の 2 施設があり、地域の医療を支えています。

#### (情報通信)

戸隠村当時に地域全域に告知端末・ケーブルテレビ網が整備されており、インターネットも利用可能です。

#### (上下水道)

上水道については、概ね市営水道が整備されています。

下水道については、地域内全域で供用できるよう整備が完了していますが、跡継ぎがない高齢者世帯では、費用負担などを理由に水洗化が進まない現状もあります。

#### (防災・生活安全)

消防団員のなり手がおらず、団員確保が困難な状況となっており、昼間の活動人員が確保できなくなっています。また、消防署がないため災害対応の遅れが危惧されます。

地元災害対応の初期対応人員の不足、応援体制に時間が掛かっており、地元防災組織の見直し・充実が必要です。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

### 鬼無里地区

平成 29 年 1 月 1 日現在

人 口	1,437 人 (男 668 人 女 769 人)
世帯数	679 世帯
面積	127.96 km <sup>2</sup>
65 歳以上人口	827 人
高齢化率	57.6%



### 地域の皆さんが思い描く将来像や方向性

平成 28 年度から始まったえごまの産地化事業の推進を第一とし、この事業を中心に、恵まれた自然の中で、地域の住民が、ゆったりとした時間を感じ、心に幸福感を持てるような地域となるように、地域民が自助・共助（互助）・公助を意識し、鬼無里の自然に合った生活ができる地域にしていく。その生活が魅力的であるように！！

### 地勢及び歴史

鬼無里地区は、市中心部より約 20km 北西に位置し、北は新潟県、西は白馬村・小谷村と境を接し、東に荒倉山、南に虫倉山等の山々に囲まれた盆地的な渓谷形をなしています。

中央を北西から南東へ裾花川が流れ、この支流として一夜山及び荒倉山山麓から小川が、また、西の物見山山麓から天神川がそれぞれ合流しています。

気候は内陸性で、地形が複雑で標高差が大きいため、夏季は冷涼で、冬季は寒さが厳しく、また根雪期間が長く累積積雪量は 3m に及び積雪寒冷地帯であり、特別豪雪地帯に指定されています。

日本有数の規模を誇るミズバショウの群生地、県指定名勝奥裾花峡谷、奥裾花自然園の巨木群（市指定文化財）、奥裾花のブナの原生林（市指定文化財）など、豊かな自然があふれる山紫水明の地域として広く知られています。

地区の歴史は古く、戦国時代は、大日方氏（小川庄の武士）の領地で、大日方氏は、武田信玄が信濃に侵攻すると早くから武田氏に属して勢力をふるいましたが、武田氏が滅びると鬼無里は織田信長の命で木曾義昌の領地となりました。本能寺の変以後、鬼無里は上杉景勝の領地となり、それ以後も領主がめまぐるしく変わり、元和 8 年（1622）松代藩主の真田氏の所領になってからは、明治維新までの 250 年間真田氏の支配が続きました。

明治 22 年に鬼無里村と日影村が合併して鬼無里村となり、平成 17 年 1 月に長野市に合併して現在に至っています。

### 産業構造及び地域の特性等

（農業）

農業については、野菜や米が主なものですが、野生鳥獣が地区内至るところに出没して、農作物に被害を与えています。また、担い手の高齢化により、耕作放棄地が増加していま

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

す。

このため、優良農地を守るためには、契約栽培等、収入の確保が図れる農業への転換が必要となっています。

かつては麻が特産でしたが、現在、えごまの特産化を目指し、「鬼無里地区美しい農村を守るプロジェクト」により栽培が進められています。

### (林業)

鬼無里地区の森林面積は 11,570ha で、地区総面積の 90.4% を占め、長野市民の重要な水源地であるとともに、県の森林整備保全重点地域に指定されています。

一方で、木材価格の低迷や所有者の高齢化などにより、手入れの行き届かない山林も顕在化しています。

### (観光)

奥裾花観光施設一帯は無電化地帯であり、電力供給はディーゼル発電機で行っているため、自然エネルギーを活用した環境にやさしい発電施設の導入が進められています。

また、奥裾花自然園の観光客の入り込みは、度重なる災害等により年々減少し、観光シーズンは春の水芭蕉期間中と秋の紅葉の期間と限られているため、新たな観光資源の発掘や滞在型観光の検討など、年間を通しての誘客宣伝が必要となっています。

### (その他の地域特性等)

人口減少が進行していますが、特に生産年齢層を中心とした人口減少が目立ち、さらに、出生率の低下と平均寿命の伸長によって高齢化が確実に進行している状況です。

農山村体験学習旅行が定着し、都会等の学生と農家との交流が数年続いています。高齢化に伴い、受入れ家庭の確保が難しくなっている状況です。

## 集落の状況

集落は、20 の地区に点在する 40 の集落から形成されていますが、ほとんどは山間の少数世帯からなる小規模集落です。

地域全体で高齢化が進んでおり、特に 65 歳以上の高齢化率は 57.6% と市内でも特に高い状況となっているため、役員の選考が年々困難な状況になっています。

生活道路の草刈りや側溝整備など地区ごとに共同作業が行われていますが、高齢化等により作業に参加できない世帯が年々増加傾向にあります。

また、同時に、お祭りなどの担い手も減少し、伝統文化を継承することも危惧されています。

進学や就職を機に、通学通勤時間や費用等の負担から市街地へ転居してしまう状況が続いています。

## 生活・交通基盤の整備状況

### (道路)

国道 406 号は、地区から市中心部に直結する唯一の基幹道路であり、改良整備が進められていますが、まだカーブや幅員の狭い場所が多く残されており、円滑な通行を妨げてい

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

ます。また、信州新町から信濃町へと通じる主要地方道信濃信州新線は地区内の改良率も低く、特に大型車の通行が困難な箇所が多く、周辺地域との連携を図る上で、課題の一つとなっています。

### （公共交通等）

平日は市営バスが地区内を 3 路線(一部デマンド方式)運行しているほか、社会福祉協議会が運営する福祉自動車が、日常生活に困難が生じている方々の貴重な交通手段として活用されています。

### （買い物その他）

日常生活品の買い物先としては、地元商店が最も多く利用されており、買い物や診療所の診察の際の交通手段として市バスが多く利用されています。

### （保健・福祉）

地区内には診療施設として長野市国民健康保険鬼無里診療所と国民健康保険鬼無里歯科診療所があります。内科・小児科については、月曜日から金曜日及び第 2・第 4 の土曜日、歯科については週 3 日診療を行っています。

### （情報通信）

鬼無里村当時に地区全域にケーブルテレビ網が整備されており、告知放送による周知やインターネットも利用可能です。

### （上下水道）

上水道については、概ね市営水道が整備されています。

下水道については、公共下水道と農業集落排水事業による整備が完了しています。その他の地域については、合併浄化槽による水洗化が図られています。

### （防災・生活安全）

消防団員は地域内での就業者が少ないため、昼間の活動人員が少ない状況です。また、若者が少なく、後継者が不足しています。

地区内には防災行政無線の屋外拡声子局が 44 箇所設置されているほか、ケーブルテレビによる告知放送が可能となっています。

また、各区に自主防災会があり、年 1 回地区全体で防災訓練を実施しています。



## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

### 大岡地区

平成 29 年 1 月 1 日現在

人 口	1,011 人 (男 497 人 女 514 人)
世帯数	544 世帯
面積	45.86 km <sup>2</sup>
65 歳以上人口	544 人
高齢化率	53.8%



### 地域の皆さんが思い描く将来像や方向性

北アルプスの雄大な景観を望み、昔ながらの農村文化が色濃く残っている大岡の清流と豊かな自然を、住民参加型のホームページからアピールする中で、移住希望者の好奇心を誘い、一人でも多くの移住者が、今いる人たちと共存して住める地域を目指します。

### 地勢及び歴史

大岡地区は、市の南西端、犀川の右岸に位置しています。

地形は、標高 1,447m の聖山を頂点として、概ね扇状に西北方向へ傾斜しており、地区で最も低い犀川沿岸部から聖山山頂までの標高差は 1,000m 余りに達しています。

北アルプスの雄大な景観を望み、森林や清冽な湧水など、豊かな緑と自然に恵まれ、芦ノ尻道祖神など独自の農山村文化を継承してきました。

明治 8 年に旧大岡郷 5 村が合併して大岡村が誕生し、明治 22 年の町村制施行により村制を施行。昭和 31 年には牧郷村中牧と弘崎の一部を編入し、平成 17 年 1 月に長野市と合併して現在に至っています。

### 産業構造及び地域の特性等

#### (農業)

信州の名水・秘水に選定された「お種池」をはじめとする豊富な湧水等を活かし、急斜面にも棚田が開かれ、稲作が盛んに行われてきましたが、近年では花き、野菜、ソバ等への転作が図られています。しかし、農業従事者の高齢化や後継者不足が深刻な課題となっており、農地の荒廃地化が顕著であるとともに、イノシシやシカなど野生鳥獣による農作物被害も急増しています。

一方で、UターンやIターンにより地区内で農業を始める者が見られ、また、都市生活者が大岡に滞在して農業や農村生活に親しむ施設として、中ノ在家クラインガルテンが整備されています。

#### (林業)

近年の木材価格の低迷とともに、林業従事者の高齢化、不在地主の増加等で森林の手入れが遅れており、森林の持つ多面的機能の低下が懸念されています。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

### (商工業)

商店は国道 19 号沿いと中央地区にわずかに立地していますが、いずれも小規模で、信州新町や篠ノ井など地区外への依存度が高まっています。工業も小規模事業所のみであり、地区内で新たな就労の場を確保が課題となっています。

### (観光)

県立自然公園聖山高原の西側に位置し、早くから別荘地などの観光開発が進められ、近年では聖山パノラマホテル、大岡温泉や特産センター等が整備されています。また、都市と農村の交流事業として、小中学校の修学旅行など農家民泊の受け入れを、住民が主体的に行っています。

### (その他の地域特性等)

「日本の棚田百選」に、慶師沖、根越沖、原田沖の 3 地区が認定されており、田植え等の時期には、写真撮影等を目的に多くの来訪者があります。

人口減少が進行していますが、特に年少人口、生産年齢人口の減少が顕著であり、老年人口が概ね半数を占める状況で、高齢者世帯や独居の高齢者も多く、今後もこの傾向が続くと、地域社会の活力低下や活動の停滞が危惧される状況となっています。

## 集落の状況

集落は、標高約 450m（犀川右岸の川口集落）から、約 1,300m（聖山北斜面の聖地区別荘地）の間に点在する 10 地区 57 集落から形成されています。

地区の中心である樺内集落の 30 世帯や国道 19 号沿いの川口集落の 49 世帯など、戸数の集中する 5 集落以外は小規模な集落が多く、1 世帯の桐沢集落をはじめ半数以上の集落が 10 世帯に満たない小規模集落となっています。

既存の集落のほか、川口、樺内、桜清水等には菜園付長期滞在施設や市営住宅、芦沼北には農業研修施設が整備され、公営住宅による新たな集落も形成されています。

高齢化が著しく進行し、いずれの集落でも生活道路の草刈り等の共同作業への参加や買い物が困難な世帯が増加していますが、共同作業を他集落からの応援に頼る傾向は少ない状況です。そのため、市街地に住んでいる子ども世代の参加や、宅配サービスなどで生活用品を購入する高齢者世帯が増加しています。

過疎化や高齢化が進行する中で、地域の活力、集落機能の維持が喫緊の課題となっています。

## 生活・交通基盤の整備状況

### (道路)

幹線道路については、地区西側の犀川に沿って国道 19 号が走り、中央部には主要地方道丸子信州新線が、南は麻績村の麻績インター方面、北は篠ノ井方面へ通じています。

地区内の主要集落を結ぶ、市道樺内大八橋線、市道芦ノ尻御曹子橋線などの幹線道路については、計画的に改良整備が進められていますが、一般の生活道路については、狭い道路も多い状況です。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

### (公共交通等)

民間バス会社による路線が存在しないため、市営バスが篠ノ井地区まで運行しているほか、デマンド方式により地区内及び信州新町地区までを結ぶ「ハッピー号」を運行しています。

### (上下水道)

上水道については、概ね市営水道が整備されています。

下水道については、合併浄化槽による水洗化が図られています。

### (防災・生活安全)

防災面では、急峻で土砂災害による被害を受けやすい地形条件にあり、道路の崩落などで容易に集落が孤立する恐れがあります。最寄りの消防署は新町消防署で、最も距離がある笹久地区に出動する場合は30分程度を要します。

また、地域の防災を支える消防団員については、地区在住者や、若い人が少なくなっており、団員確保が困難となっています。

防災行政無線は、屋外子局のほか、全戸に受信機を配置していますが、施設の更新時期を迎えています。

各区に自主防災組織が存在していますが、地区全体の災害に対する活動施策が定まっていません。

### (保健・福祉)

地区内には診療施設として、長野市国民健康保険大岡診療所と大岡歯科診療所があり、内科・小児科・外科・麻酔科については週5日、歯科については週4日診療を行っています。

### (教育・文化)

大岡小学校・中学校では、平成9年から山村留学事業を実施しています。山村留学は、都市部の児童・生徒が親元を離れ、大岡農村文化交流センター及び里親農家に居住しながら、大岡小・中学校に通学し、大岡の自然文化等を活かした様々な体験活動を行っているもので、都市住民との貴重な交流の場となっています。

しかしながら、地区内における新生児の誕生は少なく、平成26年度から大岡保育園は休園状態で、将来的には小中学校の存続も心配されています。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

### 信州新町地区

平成 29 年 1 月 1 日現在

人 口	4,295 人 (男 2,054 人 女 2,241 人)
世帯数	1,947 世帯
面積	70.73 km <sup>2</sup>
65 歳以上人口	2,053 人
高齢化率	47.8%



### 地域の皆さんが思い描く将来像や方向性

北アルプスに源を発する犀川は、山紫水明の景観を象徴し、最大のイベントである「とろう流しと納涼花火大会」で賑わうほか、アウトドアスポーツを楽しむ人も多くなっています。地域資源である犀川を活用し、篠ノ井高等学校犀峡校や地元カヌークラブと連携し誘客することで、住民が誇りと愛着がもてる地域づくりを目指します。

### 地勢及び歴史

信州新町地区は、市の西部に位置し、いわゆる西山地域と呼ばれています。

地区のほぼ中央を犀川が流れ、これに当信川、柳久保川、猿倉川、太田川が流れ込んでいます。

犀川流域にわずかな平坦地があるほかは、起伏の多い山間急傾斜地であり、居住に適した土地は少なく、産業、生活面での立地条件には恵まれていない地域であります。

山穂刈や越道からはクジラやセイウチの化石が採集されており、県指定天然記念物となっています。また、西山地域では数少ない武富佐古墳（市指定文化財）、安養寺境内出土の五輪塔・宝篋印塔・経石（市指定文化財）、久米路峡（市指定文化財）、武田信玄ゆかりの軍事的要所としての牧之島城跡（県指定文化財）などの文化財や史跡名所を有するほか、江戸時代には犀川通船が開かれ、長野盆地と松本盆地を結ぶ物流経済の要所として栄えるなど、山あいの地としては特色ある発展の歴史を有しています。

昭和 29 年 4 月に水内村と津和村が合併して久米路村となり、同年 10 月に町村制を施行し新町と改称、翌 30 年 3 月に新町と日原村、信級村が合併して信州新町となり、昭和 31 年 9 月に牧郷村の一部、昭和 34 年 4 月に八坂村左右地区を編入合併、平成 22 年 1 月に長野市と合併して現在に至っています。

### 産業構造及び地域の特性等

（農業）

りんご・梅の果樹を中心に、わさび・採種・めん羊など、小規模ではありますが、特色ある農業振興が図られています。めん羊の産地として知られ、現在は約 400 頭が飼育され、名物のジングスカンは広く知られているほか、サフォーク肉を食のブランドとして振興し

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

ています。また、遊休農地の利活用を図り、共同作業で収穫した大豆を使用した手づくり味噌「ひとり娘」も製造販売しています。

山間急傾斜地という厳しい立地条件、農業従事者の高齢化、後継者不足のほか農業経営だけでは、経済的に成り立たないことなどから農業離れが進み、農業生産額の減少、農地の荒廃化などが進んでいます。

農家形態としては、兼業農家が主であり、近年は野生鳥獣による被害が深刻な状況となっています。

鳥獣被害は、農作物生産の減少はもとより、農家の生産・作付意欲の低下にもつながり、農地の荒廃化、農業の衰退、高齢者の生きがいなど様々な面に影響しており、その対策は大きな課題となっています。

### (林業)

地区内の多くは私有林で、広葉樹林の中に小規模な人工造林団地が点在する状況であり、木材需要が伸びないことや価格の低迷、小規模な林産物生産形態などから、地区の林業経営は停滞しています。

今後、森林所有者の理解を得ながら、将来の森林づくりに向けて、間伐を中心とした森林整備を引き続き推進することが必要となっています。

### (商工業)

地区内には工場も多く、また小規模ながら商店街も形成され、農業・工業・商業のバランスある発展をしてきましたが、近年の社会経済情勢から地域経済を取り巻く状況は厳しいものとなっています。

地区内の企業は、電気電子部品製造関連工場、土木建設業が中心で、ほとんどが中小零細企業ですが、一方では、地域住民の雇用の場として大きな役割を担っています。

住民の減少や商圈の拡大により市街地への顧客流出の影響が大きく、個々の商店の経営環境は厳しい状況にあります。こうした中、商店街の後継者が構成員である NPO 法人が、地域の葬祭請負事業を行っており、商店街の一つの活力源になっていると共に、後継者の連帯感にも繋がっています。

### (観光、文化財等の地域資源)

北アルプスに源を発する犀川は、山紫水明の景観を象徴し、毎年 8 月には「とうろう流しと納涼花火大会」が行われ賑わうほか、カヌーやラフティングなどのアウトドアスポーツを楽しむ人も多くなっています。また、近年、犀川のニジマス釣りが愛好家の間で人気になっています。

自然豊かで風光明媚なこの地を愛する芸術家が多く訪れ、住民との交流を深め、それらの縁によって信州新町美術館、有島生馬記念館、化石博物館が建てられました。これらの施設には多くの来館者が訪れ親しまれているほか、芸術文化を愛する地域住民の心の拠り所となっています。

## 集落の状況

標高 400m から 800m の間に広がる山間地 15 地区の至る所に大小 120 余りの集落が点在しています。このような集落の在り方は西山地域の特徴でもあります。

---

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

地区のほぼ中央を東西に流れる犀川沿いに大中の集落が形成され、ダム湖（ろうかく湖）のある中心部には小規模ながら市街地も形成されています。その他の多くの地区は小規模集落で形成されており、地区内でも集落によって生活条件や生活環境に大きな差がありません。

過疎化、少子・高齢化は著しく、限界集落も増加しており、集落内道路の草刈や側溝清掃、除雪など、身近な生活面での共同作業が困難な地域が増え、地域の活力・集落機能は低下しています。また、伝統行事や祭事も後継者不足などにより衰退の傾向にあります。

信州新町地区では、平成 20 年に区制を導入していますが、今後は区の活動を充実しながら、従来の集落(自治会)単位の助け合いから、広範な助け合いを検討する必要があります。

こうした中、「信州新町地区人材活用センター」は、地域住民にも認知され、草刈作業や農作業など様々な分野で軽作業を受託しており、地域の助け合いの一助となっています。

### 生活・交通基盤の整備状況

#### （道路）

犀川沿いの国道 19 号を軸に、9 本の県道が基幹道路として延び、それらを結ぶように市道網が形成されています。

国道 19 号は、オリンピックを契機として整備が進んだことから、市中心部へのアクセスは向上しましたが、更埴インターへのアクセス道のほか、中条地区や近隣市町村を結ぶ基幹県道等は、改良の進捗を図る必要があります。

市道は、山間地のため狭くカーブも多く、改良率は低く、また地質が脆弱で災害に弱いことなどから、引き続き整備が必要です。

#### （公共交通等）

地区内を市営バス（コミュニティバス）が 6 路線運行しており、併せて信州新町小学校、信州新町中学校に通う児童・生徒の通学手段としてのスクールバスに一般乗客が有償で乗車する「混乗方式」のバスを 4 路線運行しています。また、市中心部と結ぶ民間路線バス 1 路線と、篠ノ井地区と結ぶ路線バス 1 路線が運行されていますが、篠ノ井地区と結ぶ路線は市の支援により運行が継続されています。

その他、地区社会福祉協議会が運営する福祉自動車もあり、要介護者や障害者などの重要な交通手段として利用されています。

こうした交通手段の他、JAによるお買い物バスも運行され、地域交通の確保を補完しています。

#### （買い物その他）

地区の商圈は市街地に大きく依存していますが、食料品や日常生活用品の買い物は地区内の商店街やスーパー、ホームセンター、コンビニエンスストアなども比較的利用されています。また、高齢者世帯などでは食料品の宅配を利用しているケースもある他、NPO 法人による弁当の宅配サービスも利用されています。

#### （保健・福祉）

医療面は、長野県へき地医療拠点病院である厚生連新町病院と個人診療所 1 医院、歯科 3 医院があり、中山間地域としては比較的恵まれています。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

高齢化率が高く、高齢者のみの世帯、独居高齢者世帯など援助の必要な世帯が増加しており、高齢者福祉や介護サービスの重要性は年々高まっています。今後も高齢化が進む中、住み慣れた地域で引き続き生活ができるよう、在宅介護サービスの充実を図ることが重要です。

地区の医療機関と市が協力しながら特定検診を実施し、また、各種検診の定着・充実、地域住民の健康づくりが進められています。今後、健康教育、保健指導等の充実などにより、住民の健康意識の高揚を図りながら、さらに、地域保健体制を充実していく必要があります。

出生数の減少や過疎化による少子化の進展は、地域の活力衰退にも大きく影響しています。保育園は、保育のほか週一回、園の開放を行う「子育て支援」も行っており、地域の子育ての拠点となっています。

また、小学校では空き教室を利用した、放課後子ども総合プランを運営していますが、区・集落単位では子ども同士の交流(成長)機会が少ないため、地域全体で子ども達の健全な成長を支えていく必要があります。

### (上下水道)

上水道については、概ね市営水道が整備されていますが、集落営の小規模水道施設や個人等で維持管理を行なっている水道施設もあり、水量や水質に不安を抱えている地域が多い状況です。集落営の小規模水道施設では、老朽化した施設の改良が必要となっている地域も多くあります。

下水道については、国道沿いの地域を中心に整備が進んでいますが、山間地域の合併浄化槽による整備が遅れています。今後は公共下水道、農業集落排水の接続率の向上と、合併浄化槽の普及促進を図る必要があります。

### (情報通信)

信州新町当時にケーブルテレビ網が整備され、ほとんどの世帯が加入しており、テレビ放送のデジタル視聴環境と光ケーブルによる高速インターネット環境は整備されています。

### (防災・生活安全)

地形が急峻で地盤が脆弱なため、豪雨時には土砂災害が多発しています。また、犀川沿いでは河川の増水により過去に浸水災害などが発生し、安全・安心な地域づくりが課題の一つとなっています。

地区内の消防団は5分団で高齢化等により団員確保が困難な状況であり、火災時・災害時などにおける消防力・防災力の低下が憂慮されています。

防火水槽、消防積載車などの消防施設、装備については、充足整備、計画的更新など、充実を図る必要があります。

地区内の犯罪は、主に軽犯罪ですが、近年は高齢者を狙った詐欺被害も発生しています。高齢者が多いことから今後も詐欺被害、悪質商法被害などの発生が憂慮されています。

地区防犯協会では、定期的に防犯パトロールを行うなど啓発活動を行っていますが、引き続き子どもたちや高齢者を地域全体で見守る活動を継続していく必要があります。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

(教育・文化)

小学校、中学校はそれぞれ 1 校であり、過疎化、少子化のため児童生徒数の減少が続き、いずれも 1 学年 1 学級の少人数編成となっており、将来は複式学級などなることが危惧され、子どもたちの教育への影響が心配されるとともに、中学校では部活が限定されるといった影響も懸念されます。

元県立犀峽高校は、地域高校としての役割を期待されているものの生徒数の減少により、平成 23 年度から篠ノ井高校の地域キャンパスとなっています。同校は当地区だけでなく、犀峽西山地区の高校教育の拠り所として、今後も地区全体で支援が必要です。



## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

### 中条地区

平成 29 年 1 月 1 日現在

人 口	1,888 人 (男 899 人 女 989 人)
世帯数	870 世帯
面積	33.29 km <sup>2</sup>
65 歳以上人口	976 人
高齢化率	51.7%



### 地域の皆さんが思い描く将来像や方向性

「虫倉山に抱かれた山姥の里」として、子育ての神様である山姥の思いを次代に伝え、西山魂の下、地域の魅力を残していく地域づくり

#### 【方向性】

地域の自然や景観、文化と伝統を守るとともに、地域の魅力を地区内外に発信し、交流人口の拡大と、移住者のみなさんの発想を受容し、定住人口の維持をめざした地域づくりに努める。

### 地勢及び歴史

中条地区は、市中心部より西に位置し、いわゆる西山地域と呼ばれています。

東は七二会地区、北は戸隠・鬼無里地区、西は小川村、南は信州新町地区に接し、北には信州百名山の一つに数えられる標高 1,378m の「虫倉山」がそびえ、中心部を東西に土尻川が流れ、地区内の小河川を集め地区東南で犀川へ合流しています。

地区内には、主要地方道長野大町線沿いを中心に 99 の集落がほぼ全域に点在しており、それぞれの集落の周囲には耕地が広がっています。

地区の歴史は古く、縄文時代の集落遺跡である宮遺跡（市指定文化財）、中世の柏鉢城跡（市指定文化財）などがあり、寺院、神社も数多く、県宝に指定された正法寺の木造聖観音菩薩立像は平安中期の作であります。

日下野地区には、県の天然記念物に指定されている目通りの幹周り 11.4m、樹齢 1,300 年の「日下野のスギ」があります。

観光では、山姥伝説で知られる虫倉山や、棚田など情緒豊かなふるさとの原風景が多くの人々に親しまれています。また、道の駅を中心に豊かな自然を活かしたイベントが開催されるなど、ふるさと体験型の観光地を形成しています。

昭和 30 年に栄村と日里村が合併して中条村となり、平成 22 年 1 月に長野市と合併して現在に至っています。

### 産業構造及び地域の特性等

#### （農業）

農業は野菜類・穀類の栽培等の畑作を中心に営まれており、特に大豆については、「西山

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

大豆」としてブランド化を進めてきました。農業従事者の減少や高齢化により野菜、米が中心の農業から、西山大豆のブランド化により、最近では大豆栽培が再び増加し始めています。

農家形態としては、専業農家が多く、近年は野生鳥獣による被害が深刻な状況となっています。

### (林業)

林業については、杉を中心とした人工林が伐採期に入っていますが、木材価格の低迷・森林所有者の高齢化・不在地主の増加などにより、手入れがされない放置森林が課題となっています。また、急傾斜地が多く、地すべり等の自然災害のおそれもあります。こうした状況から間伐等の森林整備が急務となっています。

### (商工業)

商業については、交通網の発達により中心市街地に行く割合が多くなり、また後継者不足等もあり閉店する商店が増加しています。

また、工業については数件の工場が稼働していますが、従業員の確保が難しくなっています。

地域に伝わる特産物の商品化や、農商工の連携等により、高収益化や雇用の増進につなげる必要があります。

### (観光)

観光客のニーズの多様化により「心の豊かさ」を求めた「田舎志向」の動きが見られるようになってきており、地区内に多く見られる棚田など豊かな自然を活かした農作業体験・昆虫採集等、体験型イベント観光への参加者が増加しています。

## 集落の状況

標高約 400～約 800mの間に広がる山間地の 11 行政連絡区に 99 の集落が点在し、1 世帯の単独集落から最大でも 66 世帯と小規模なコミュニティを形成しています。

地域全体で人口減少が進行し、特に若年層を中心とした減少が目立ち、高齢化が進行する中、99 の集落のうち半数近い 45 の集落で、生活道路の草刈り等の共同作業への参加が困難になっています。また、高齢者等で買い物ができない世帯が 100 世帯を超えるなど年々増加傾向にあります。

## 生活・交通基盤の整備状況

### (道路)

国道 19 号と国道 148 号を結ぶ主要地方道長野大町線が地区内を横断、住民の生活や経済産業の基盤となっています。地域の主要幹線道路である県道小川長野線・古屋敷境ノ沢線・信州新町中条線は改良率が低いことから引き続き整備の必要があります。

地区内の各地域を結んでいる市道は、住民の日常生活の基盤となっています。道路施設の老朽化、通行車両の大型化などにより道路施設の破損が著しく、計画的な道路施設の維持・整備が必要となっています。

## IV 中山間地域の状況 2 地区ごとの将来像と現況及び課題

---

### （公共交通等）

地区内を市営バス4路線とデマンドバス2台で結んでいます。また、市中心部と結ぶ民間路線バス1路線が運行されています。

その他、地区社会福祉協議会が運営する福祉自動車もあり、要介護者や障害者などの重要な交通手段として利用されています。

### （保健・福祉）

地区内には医療機関として、長野市国民健康保険中条診療所があり、内科については週6日診療を行っています。また歯科診療所が市の施設を借り受ける形で週6日診療を行っています。

高齢者福祉では、高齢者福祉施設の充実を図るために、老人福祉センターがあります。

児童福祉については、出生率の低下で園児が減少する中、就学前の子どもに対する教育及び保育並びに保護者に対する子育て支援を行う「認定こども園」を平成21年4月に開園しました。

地域保健については、支所駐在保健師による各種健康診査、保健指導、健康教育及び健康相談の充実により効果的な疾病の予防対策を行っています。

### （上下水道）

上水道については、概ね市営水道が整備されていますが、集落営の小規模水道施設や個人等で維持管理を行なっている水道施設もあります。

下水道については、一部の地域において公共下水道による整備が完了しています。その他の地域については合併浄化槽による水洗化を図っています。

### （情報通信）

中条村当時に地域全域にケーブルテレビ網が整備され、有線放送、緊急時の情報発信及びデジタル放送の難視聴地域が解消されています。

### （防災・生活安全）

他地区と同様に、中条全区に自主防災会組織を結成し、訓練も実施しています。今後は自主防災組織の育成により地域住民の防災意識の高揚を図っていきます。

また、消防団員の減少に伴い女性団員の登用を進めるなど、地域消防力の維持に努めていきます。

### （教育・文化）

生活の多様化や長寿社会の進展に伴い、住民の生涯学習、スポーツ・レクリエーションに対する要求は年々高まっています。平成15年度にはマレットゴルフ場を開設し、中高年層を中心に広く地域住民に利用されています。

このほか地区内には、生涯学習施設として公民館・遺跡公園等が整備されており、地域における教育、文化活動の振興に寄与しています。公民館は、若年層から高齢者まで生涯教育の拠点施設として、各種の講座、集会、クラブ活動が活発に行われています。

既存施設の連携や広報・PR活動の充実を図り、住民の生涯学習の充実とその有効活用を目指しています。

音楽堂を利用した「中条虫倉太鼓」の活動の発展や後継者の育成促進を図っています。

## 参考資料

### 長野市中山間地域住民アンケート 概要と調査結果

#### 【調査の概要】

- 調査名 中山間地域住民アンケート調査
- 目的 中山間地域住民の抱える課題や実態・意向を把握し、第二次長野市やまざと振興計画策定のための基礎資料とする。
- 調査期間 平成28年9月6日(火)～9月23日(金)
- 対象地域 本市の中山間地域 13地区
- 標本抽出 中山間地域に在住の20歳以上の男女  
住民基本台帳平成28年9月1日現在からの等間隔無作為抽出
- 標本総数 480人 各地域の人口比を考慮、年齢比は考慮していない。  
浅川22人 小田切19人 芋井38人 信里22人 松代豊栄26人  
松代西条30人 若穂保科54人 七二会28人 信更37人  
戸隠60人 鬼無里24人 大岡17人 信州新町73人 中条30人  
(総数は、長野市まちづくりアンケートの抽出割合に準ずる)
- 調査方法 返信用封筒を同封した質問票の送付
- 回収結果 回収標本 291人  
回収率 60.6%
- 調査内容 別添のアンケート用紙参照

## 長野市 中山間地域住民アンケート調査票

※ 選択肢の回答は、あてはまるものを選び、数字に○をつけてください。

### あなたご自身について

問1 あなたのお住まいの地区はどちらですか (○は1つ)

- |              |           |          |
|--------------|-----------|----------|
| 1. 浅川        | 6. 若穂(保科) | 10. 鬼無里  |
| 2. 小田切       | 7. 七二会    | 11. 大岡   |
| 3. 芋井        | 8. 信更     | 12. 信州新町 |
| 4. 篠ノ井(信里)   | 9. 戸隠     | 13. 中条   |
| 5. 松代(豊栄・西条) |           |          |

問2 あなたの性別 1. 男性 2. 女性

問3 あなたの年代は次のうちどれですか (○は1つ)

- |         |         |           |         |
|---------|---------|-----------|---------|
| 1. 20歳代 | 2. 30歳代 | 3. 40歳代   | 4. 50歳代 |
| 5. 60歳代 | 6. 70歳代 | 7. 80歳代以上 |         |

問4 あなたの職業 (○は1つ)

- |               |        |         |           |             |
|---------------|--------|---------|-----------|-------------|
| 1. 農林業        | 2. 会社員 | 3. 団体職員 | 4. 公務員    | 5. 専業主婦(主夫) |
| 6. 自営業(農林業以外) | 7. 学生  | 8. 無職   | 9. その他( ) |             |

### 世帯の状況について

問5 あなたの世帯の構成員(人数・性別) あなたを含めた人数

男性 \_\_\_\_\_人 女性 \_\_\_\_\_人 合計 \_\_\_\_\_人

問6 あなたの世帯の構成状況について (○は1つ)

- |       |       |          |          |           |
|-------|-------|----------|----------|-----------|
| 1. 単身 | 2. 夫婦 | 3. 二世帯同居 | 4. 三世帯同居 | 5. その他( ) |
|-------|-------|----------|----------|-----------|

問7 あなたの世帯の、主な収入源は何ですか? (○は1つ)

- |        |       |               |       |           |
|--------|-------|---------------|-------|-----------|
| 1. 農林業 | 2. 給与 | 3. 自営業(農林業以外) | 4. 年金 | 5. その他( ) |
|--------|-------|---------------|-------|-----------|

問8 あなたの世帯の跡継ぎについて (○は1つ)

- |                                 |  |  |  |  |
|---------------------------------|--|--|--|--|
| 1. 自分自身が跡継ぎ                     |  |  |  |  |
| 2. 同居している跡継ぎがいる                 |  |  |  |  |
| 3. 今は同居していないが、いずれ戻ってくる予定の跡継ぎがいる |  |  |  |  |
| 4. 誰が跡を継ぐか決まっていない               |  |  |  |  |
| 5. 跡継ぎがいらない                     |  |  |  |  |
| 6. その他 ( )                      |  |  |  |  |

日常生活の状況について

問9 あなたの「食料品」や「日用雑貨」の購入について

○最も利用する場所 (○は1つ)

1. 地元地域内
2. 近隣の中山間地域
3. 長野市街地やその郊外
4. 他市町村

○最も利用する購入手段 (○は1つ)

1. 自分自身で購入
2. 同居の家族に購入してもらう
3. 別居の家族や知人に購入してもらう
4. 業者による配達(移動販売車の利用も含む)
5. その他 ( )

問10 通院や軽度な病気・怪我で、最も利用する病院等の所在地について(○は1つ)

1. 地元地域内
2. 近隣の中山間地域
3. 長野市街地やその郊外
4. 他市町村

問11 買い物や通院などで外出する際に、最も利用する交通手段 (○は1つ)

1. 自家用車(自分が運転)
2. 自家用車(同居の家族が運転)
3. 別居の家族や近所の人の自動車
4. 路線バス
5. 福祉自動車
6. 乗り合いタクシー等 (あざかわ号・すずらん号・かつら号・すざくら号・じんば号・のぶさと号・ハッピー号等)
7. 原付・オートバイ
8. 自転車・徒歩
9. その他 ( )

生活上の課題や対策について

問12 日常生活上の不満 (○は3つまで)

1. 近くに食料品を買う店がない
2. 公共交通の便が悪い
3. 働く場所がない
4. 病院や診療所が遠い
5. 市役所の支所まで遠い
6. 金融機関まで遠い
7. 道路の整備状況が悪い
8. 携帯電話のつながりが悪い
9. ラジオやテレビの電波が悪い
10. インターネット環境が整っていない
11. 水道の供給が悪い
12. 不満はない
13. その他 ( )

問13 生活で心配なことや困っていること (○は3つまで)

1. 有害鳥獣の被害
2. 急病・災害時の緊急対応
3. 集落内の共同作業(祭り・草刈)
4. 体力の衰えによる日常生活の作業
5. 公共交通手段
6. 子育て環境の後退(保育園・学校等)
7. 農地山林の荒廃
8. 不法投棄
9. その他 ( )

問14 行政に取り組んでほしいこと (○は3つまで)

1. 有害鳥獣対策の強化
2. 個性豊かな地域づくり
3. 高齢者への保健・福祉・介護
4. 伝統文化の継承支援
5. 交通手段の確保・充実
6. 農業の振興・担い手育成
7. 雇用の場の確保
8. 子育て環境の確保
9. 移住・交流の推進
10. 観光振興
11. 医療の充実
12. 道路の整備
13. 水道整備の充実
14. 金融機関の確保
15. その他 ( )

今後の生活について

問15 これからの居住場所について (○は1つ)

1. 現在の場所に住み続けたい
2. 住み続けたいが、他の場所に移ることになると思う
3. 他の場所に移りたいが、決断できない
4. 条件が整い次第、他の場所に移りたい
5. 現時点では決めてない

問 16 前問 15 で「3.他の場所に移りたいが、決断できない」とお答えの方にお聞きします。決断できない理由は何ですか？（〇は2つまで）

1. 経済的な余裕がない
2. 先祖代々の土地を守りたい
3. 新しい場所での生活が不安
4. 地域に愛着がある
5. その他（ ）

問 17 前問 15 で「2.住み続けたいが、他の場所に移ることになると思う」、「3.他の場所に移りたいが、決断できない」、「4.条件が整い次第、他の場所に移りたい」とお答えの方にお聞きします。移転する場合、現在の家屋や土地の扱いはどのように考えていますか？（〇は1つ）

1. できれば売りたい
2. 売る気はないが、貸してもよい
3. 特に今は何も考えていない
4. 時折帰ってきた際に利用する
5. 将来帰ってきた際に、今後も管理していく
6. 当面、そのままにしておく
7. 取り壊す予定

都市部との交流について

※「交流」とは、イベントや体験・作業などを通して、親交を深めること

問 18 都市部の人たちとの交流についてどのようにお考えですか？（〇は1つ）

1. 積極的に取り組むべき
2. どちらかといえば取り組むほうがよい
3. あまり必要と思わない
4. 必要だと思わない
5. どちらとも言えない・分からない

問 19 都市部の人たちとの交流するとしたら、どのような方法が好ましいですか？（〇は2つまで）

1. 地域イベントやお祭りなどを通じた交流
2. 子ども同士の交流
3. 農作業体験を通じた交流
4. 草刈や清掃作業などのボランティア活動を通じた交流
5. 自分たちが都市部へ出かける交流

問 20 あなたのお住まいの地域や周辺に、都市部から移住者が来ることを希望しますか？（〇は1つ）

1. 希望する
2. どちらかといえば希望する
3. どちらかというど希望しない
4. 希望しない
5. どちらとも言えない・分からない

問 21 前問 20 で「1.希望する」「2.どちらかといえば希望する」とお答えの方にお聞きします。都市部からの移住者にどのようなことを期待しますか？（〇は2つまで）

1. 人口や子どもの増加
2. 地域活性化のきっかけづくり
3. 地域活動の担い手
4. 新しい情報や価値をもたらしこと
5. 特に期待することはない

問 22 前問 20 で「1.希望する」「2.どちらかといえば希望する」とお答えの方にお聞きします。都市部からの移住者には、どの年代にきてほしいですか？（〇は1つ）

1. 特に年代は問わない
2. 10代から30代
3. 40代から50代
4. 60代以上

その他

問 23 あなたにとって、お住まいの地域は住みやすいところですか？

1. 住みやすい
2. まあまあ住みやすい
3. どちらともいえない
4. あまり住みやすくない
5. 住みにくい

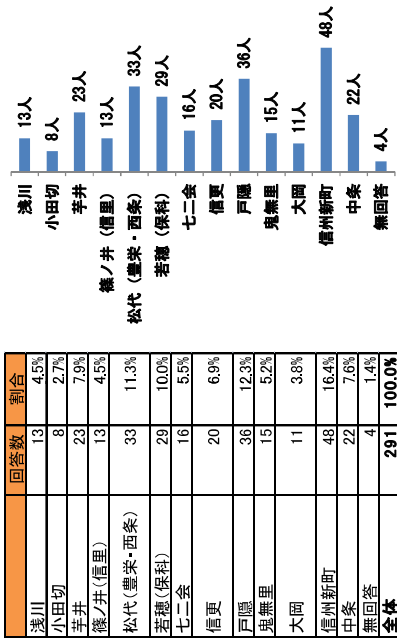
問 24 あなたは、お住まいの地域への愛着や誇りを感じていますか？

1. 感じている
2. 少し感じている
3. あまり感じていない
4. 感じていない
5. 分からない

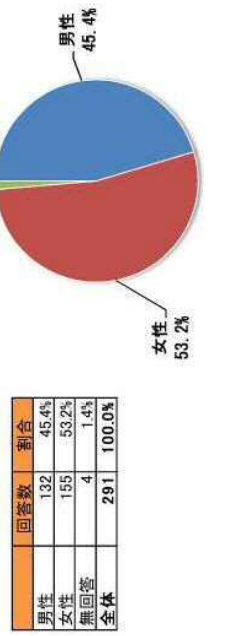


# ■あなたご自身について

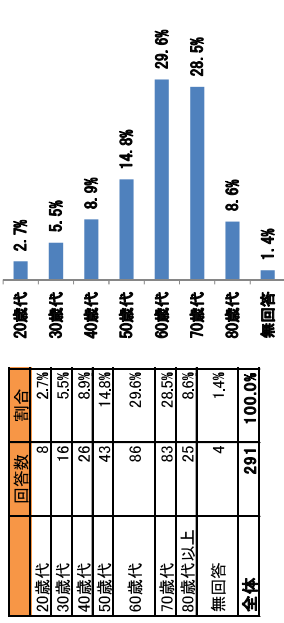
問1 あなたのお住まいの地区はどちらですか (〇は1つ)



問2 あなたの性別



問3 あなたの年代は次のうちどれでしょうか (〇は1つ)



- ・「60歳代」が29.6%で最も高く、次いで「70歳代」が28.5%を占めている。
- ・60歳以上の回答者は66.7%を占めている。

問4 あなたの職業 (〇は1つ)



【その他】看護師、介護職、アルバイト(パート)、僧侶、医療関係 など

- ・問3で60歳以上の回答者が66.7%と多いことから、「無職」が最も高く26.8%を占めている。



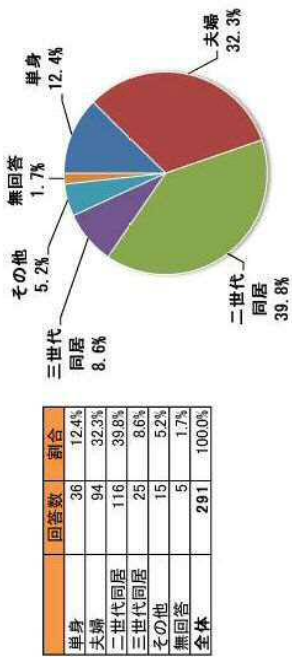
## ■ 日常生活の状況について

問5 あなたの世帯の構成員（人数・性別）あなたを含めた人数

	男0	男1	男2	男3	男4	男5	男6
女0	14	1	1	0	0	0	0
女1	22	100	33	8	2	1	0
女2	4	38	23	4	3	1	0
女3	1	2	4	7	3	0	0
女4	0	1	2	4	2	0	0
女5	0	2	1	0	0	0	0
女6	0	0	0	0	0	0	0

※無回答=7

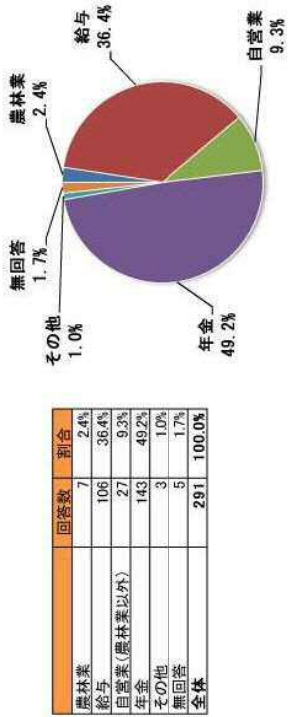
問6 あなたの世帯の構成状況について（○は1つ）



【その他】特養入居中、兄弟（姉妹）、養子、四世代同居 など

・「二世世代同居」が39.8%で最も高く、次いで「夫婦」が32.3%を占めている。

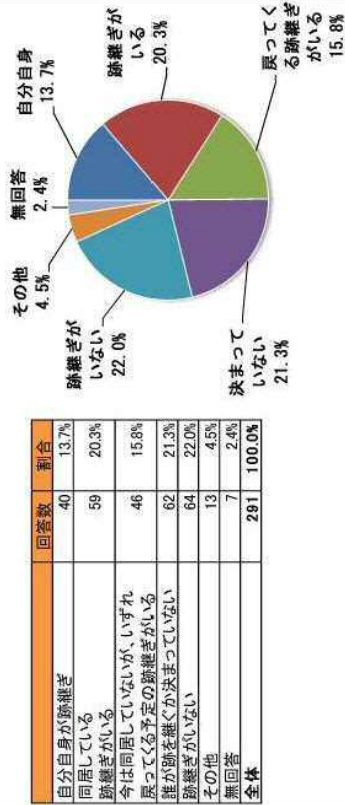
問7 あなたの世帯の、主な収入源は何ですか（○は1つ）



・60歳以上の回答者が多いことから、「年金」が最も高く49.2%を占めている。

・問4で職業の回答では「農林業」が13.4%を占めているにも関わらず、収入源の回答では2.4%に減っている。

問8 あなたの世帯の跡継ぎについて（○は1つ）

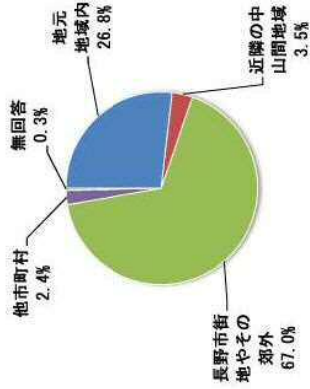


【その他】跡を継がせたくない、近所に息子家族が居る など

・「跡継ぎがいない」が22.0%で最も高く、次いで「誰が跡継ぎか決まっていない」が21.3%を占めている。

問9 あなたの「食料品」や「日用雑貨」の購入について  
○最も利用する場所 (○は1つ)

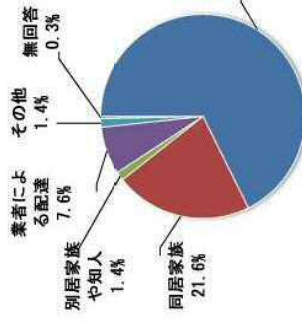
	回答数	割合
地元地域内	78	26.8%
近隣の中山間地域	10	3.5%
長野市街地やその郊外	195	67.0%
他市町村	7	2.4%
無回答	1	0.3%
全体	291	100.0%



・「長野市街地やその郊外」を利用する人が最も多く67.0%を占めている。

○最も利用する購入手段 (○は1つ)

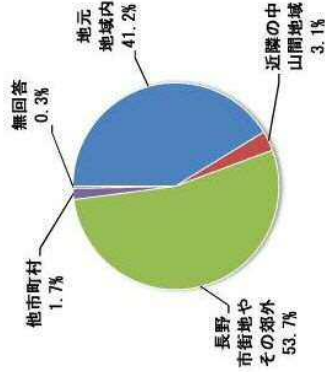
	回答数	割合
自分自身で購入	197	67.7%
同居の家族に購入してもらう	63	21.6%
別居の家族や知人に購入してもらう	4	1.4%
業者による配達(移動販売車も含む)	22	7.6%
その他	4	1.4%
無回答	1	0.3%
全体	291	100.0%



・「自分自身で購入」が67.7%で最も高く、次いで「同居の家族に購入してもらう」が21.6%を占めている。

問10 通院や軽度な病氣・怪我で、最も利用する病院等の所在地について (○は1つ)

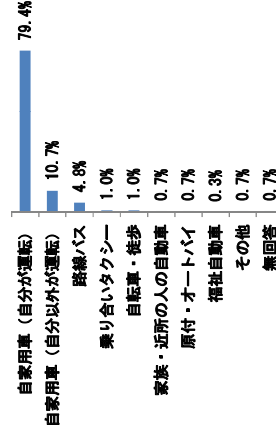
	回答数	割合
地元地域内	120	41.2%
近隣の中山間地域	9	3.1%
長野市街地やその郊外	156	53.7%
他市町村	5	1.7%
無回答	1	0.3%
全体	291	100.0%



・「長野市街地やその郊外」が53.7%で最も高く、次いで「地元地域内」が41.2%を占めている。

問11 買い物や通院などで外出する際に、最も利用する交通手段 (○は1つ)

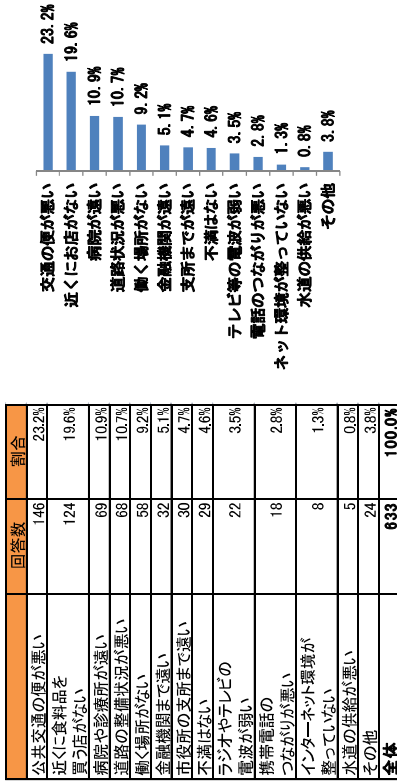
	回答数	割合
自家用車(自分が運転)	231	79.4%
自家用車(同居の家族が運転)	31	10.7%
路線バス	14	4.8%
乗り合いタクシー	3	1.0%
自転車・徒歩	3	1.0%
別居の家族や近所の人の自動車	2	0.7%
原付・オートバイ	2	0.7%
福祉自動車	1	0.3%
その他	2	0.7%
無回答	2	0.7%
全体	291	100.0%



・「自家用車(自分が運転)」が79.4%で最も高く、次いで「自家用車(同居の家族が運転)」が10.7%を占めている。  
・中山間地域では移動は自家用車中心の生活である。

## ■ 生活上の課題や対策について

問12 日常生活上の不満 (〇は3つ)



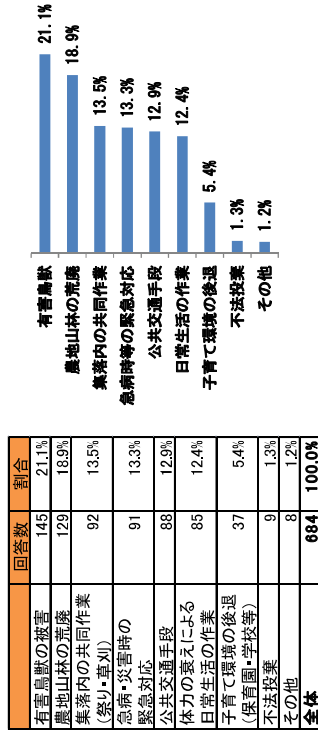
・「公共交通の便が悪い」が23.2%で最も高く、次いで「近くに食料品を買う店がない」が19.6%を占めている。

問14 行政に取り組んでほしいこと (〇は3つまで)



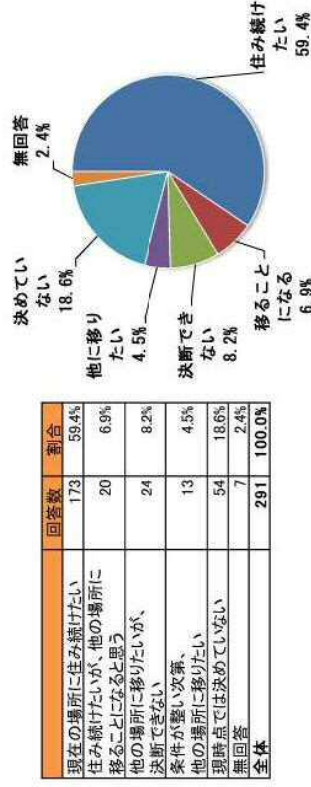
・「有害鳥獣対策の強化」が最も高く19.2%を占めている。

問13 生活で心配なことや困っていること (〇は3つまで)



・「有害鳥獣の被害」が21.1%で最も高く、次いで「農地山林の荒廃」が18.9%を占めている。

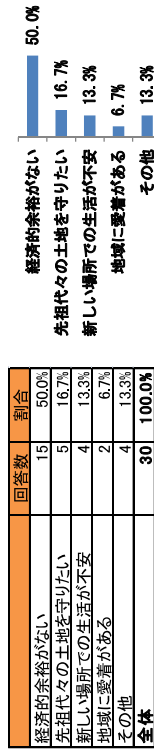
問15 これからの居住場所について (〇は1つ)



・「現在の場所に住み続けたい」が最も高く59.4%を占めている。

## ■ 都市部との交流について

問 16 前問 15 で「3. 他の場所に移りたいが、決断できない」とお答えの方にお聞きします。決断できない理由は何ですか？（〇は 2 つまで）



・「経済的余裕がない」が最も高く 50.0% を占めている。

問 18 都市部の人たちとの交流についてどのようなとお考えですか？（〇は 1 つ）



・「積極的に取り組むべき」と「どちらかといえば取り組むほうがよい」を合わせると、54.9% を占めている。

問 17 前問 15 で「2. 住み続けたいが、他の場所に移ることになると思う」、「3. 他の場所に移りたいが、決断できない」、「4. 条件が整い次第、他の場所に移りたい」とお答えの方にお聞きします。

移転する場合、現在の家屋や土地の扱いはどのように考えていますか？（〇は 1 つ）



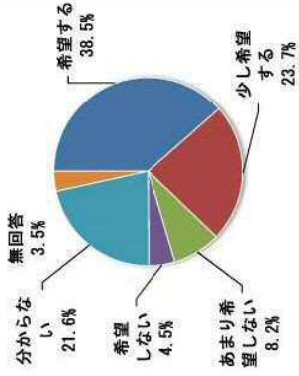
・「特に今は考えていない」が最も高く 35.1% を占めている。  
 ・「時折帰ってきた際に利用する」と「将来帰って来れるように、今後も管理していく」を合わせると 19.3% を占めている。

問 19 都市部の人たちとの交流するとしたら、どのような方法が好ましいですか？（〇は 2 つまで）



・「地域のイベントやお祭りなどを通じた交流」が 37.0% で最も高く、次いで「農林業体験を通じた交流」が 26.6% を占めている。

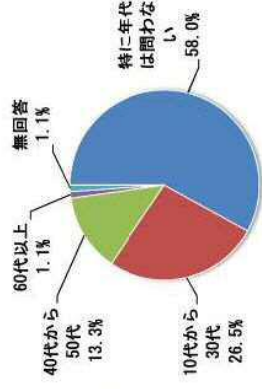
問 20 あなたのお住まいの地域や周辺に、都市部から移住者が来ることを希望しますか？（○は2つまで）



希望する	回答数	割合
希望する	112	38.5%
どちらかといえば希望する	69	23.7%
どちらかといえば希望しない	24	8.2%
希望しない	13	4.5%
どちらとも言えない/分からない	63	21.6%
無回答	10	3.5%
全体	291	100.0%

・「希望する」と「どちらかといえば希望する」を合わせると、62.2%を占めている。

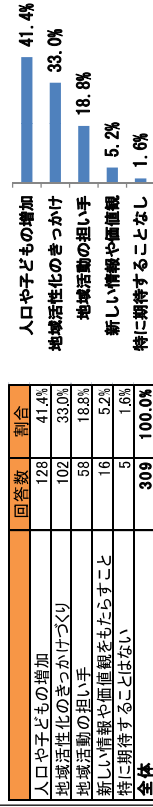
問 22 前問 20 で「1. 希望する」、「2. どちらかといえば希望する」とお答えの方にお聞きします。都市部からの移住者には、どの年代にきてほしいですか？（○は1つ）



年代	回答数	割合
特に年代は問わない	105	58.0%
10代から30代	48	26.5%
40代から50代	24	13.3%
60代以上	2	1.1%
無回答	2	1.1%
全体	181	100.0%

・「特に年代は問わない」が最も高く 58.0%を占めている。

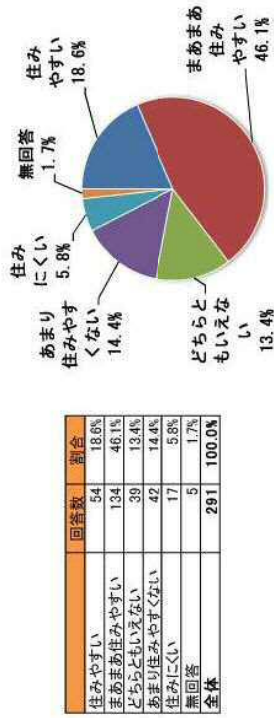
問 21 前問 20 で「1. 希望する」、「2. どちらかといえば希望する」とお答えの方にお聞きします。都市部からの移住者にどのようなことを期待しますか？（○は2つまで）



・「人口や子どもの増加」が 41.4%で高く、次いで「地域活性化のきっかけづくり」が 33.0%を占めている。

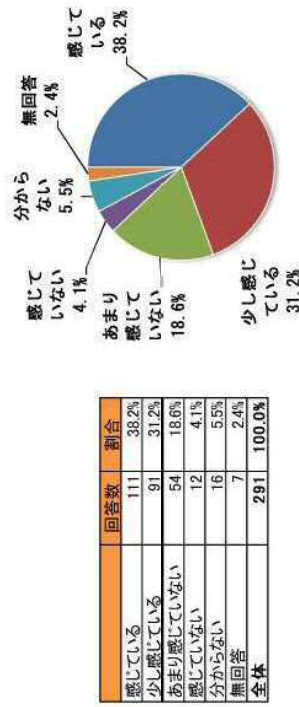
## ■ その他

問 23 あなたにとって、お住まいの地域は住みやすいところですか？ (○は1つ)



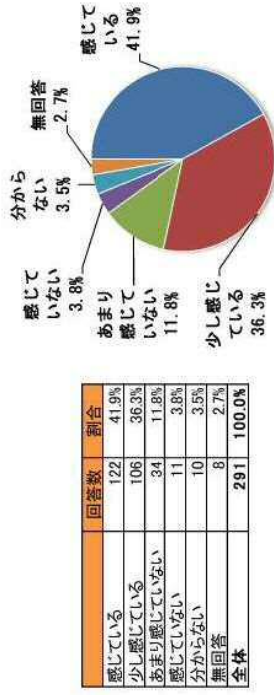
・「まあまあ住みやすい」が46.1%で最も高く、「住みやすい」と合わせると全体の約60%を占めている。

問 24 あなたは、お住まいの地域への愛着や誇りを感じていますか？ (○は1つ)



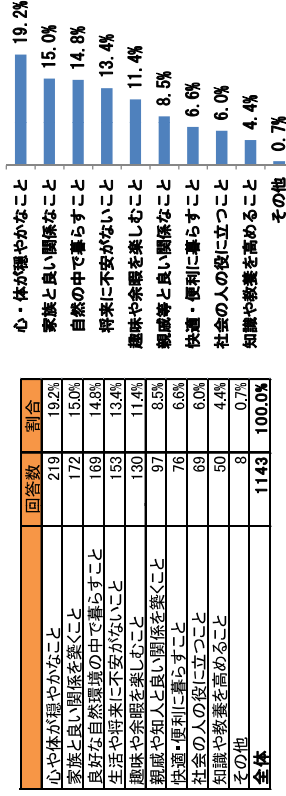
・「感じている」が38.2%で最も高く、「少し感じている」と合わせると69.4%を占めている。

問 25 あなたは、現在の暮らしを「幸せ」だと感じていますか？ (○は1つ)



・「感じている」が41.9%で最も高く、「少し感じている」を合わせると78.2%を占めている。

問 26 あなたは、どのようなことを「幸せ」だと感じますか？ (該当する番号すべてに○)



・複数回答ではあるが回答数も多く、回答者の多くが幸せを感じていることがわかる。



第二次長野市やまざと振興計画  
～中山間地域の振興に向けて～  
(平成 29 年度～平成 33 年度)

編 集 長野市地域・市民生活部地域活動支援課

電 話 026-224-5033

発行日 平成 29 年 4 月